

## 2012年度防災教育チャレンジプラン活動報告会

実践団体 No.4

千葉県立東金特別支援学校

## その他資料

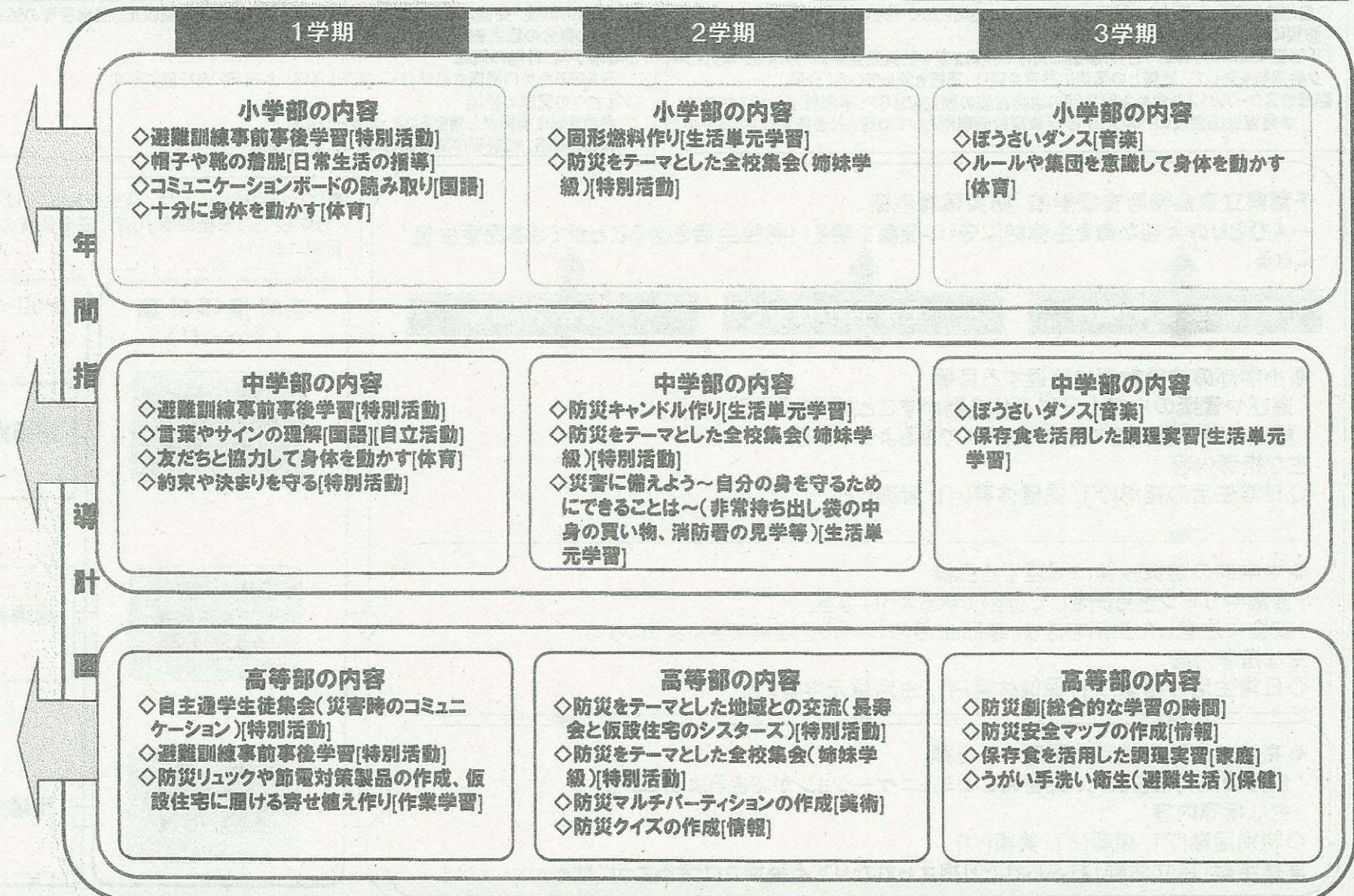
その他資料 ・ 防災教育計画 学校安全計画

- ・ 健康安全チェックシート 防災教育学習内容一覧
- ・ 災害時情報カード（引き渡し 通学 土日）
- ・ 災害時の医薬品預かり
- ・ 指導案（避難所開設 防災集会 防災コミュニケーション）
- ・ ヘルプカード
- ・ 頭を守ること調査 東北訪問資料
- ・ 防災教育ネットワーク会議設置要項
- ・ 新聞記事 指導資料（県 文科省などへ）
- ・ あたりまえ体操の解説



# 千葉県立東金特別支援学校 防災教育計画

## 千葉県立東金特別支援学校 防災教育に関する目標 一人ひとりの大切な命を主体的に守り、健康で明るい学校生活を送ることができる児童生徒になる。



# 千葉県立東金特別支援学校 防災教育計画

## 防災に関する学校の現状等

- 授業を通して障害のある児童生徒に対する防災教育のポイントを探り児童生徒の取り組みを通して家庭の防災意識を高めている(自助)。
- 自治会やPTAと協力し、防災をテーマとした地域との交流を行い、地域と一緒に防災に対する意識を高めている(共助)。
- 「防災ユニバーサルねっと」の構築に向けて、講演会や防災安全マップの作成、ネットワーク会議等を通して、地域との情報の共有を図り、連携を深めている(公助)。
- 課題●スクールバスを含めた緊急時の連絡方法の確立●BCP(事業継続計画)の作成  
●児童生徒全員のヘルメット移行●福祉避難所としての備えと連携及びマニュアル

## 防災教育で身に付けさせたい力

- 知識、思考・判断の領域  
(生活)命を守るために身体の部位の理解 衣服の調節等体調管理 (交通)安全な歩行 自転車の特性 交通ルールの理解(災害)火災、地震、津波、液状化、風水害等の理解  
(共通)自分の意見を持つ 他者の意見聞く
- 危険予測・行動の領域  
命を守るために健康な身体作り 指示(言葉、カード等)を行動に移す
- 社会への貢献の領域  
名前を覚え挨拶から始まるコミュニケーション 報告、連絡、相談等の災害時のコミュニケーション

## 千葉県立東金特別支援学校 防災教育目標

一人ひとりの大切な命を主体的に守り、健康で明るい学校生活を送ることができる児童生徒になる。

ア 知識、思考・判断

イ 危険予測・行動

ウ 社会への貢献

### ◆小学部の防災教育に関連する目標

遊びや音楽の中で十分に身体を動かすことができるようになる。  
帽子や靴の着脱ができるだけ早くできるようになる。

主な指導内容

◇日常生活の指導[ア], 保健体育[イ], 音楽[ウ]

### ◆中学部の防災教育に関連する目標

言葉やサインを見聞きして行動できるようになる。  
安全に注意した生活を送り、集団生活のルールを理解できるようになる。

主な指導内容

◇日常生活の指導[ア], 保健体育[イ], 生活単元学習[ウ]

### ◆高等部の防災教育に関連する目標

自分の気持ちを伝え、災害時のコミュニケーションができるようになる。

主な指導内容

◇特別活動[ア], 情報[イ], 美術[ウ]

重複学級(自立活動)おぶられたり抱えられたりする姿勢ができるようになる。

身に付けさせたい力は、「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育(p31)安全教育の目標に基づく。

## 年間指導計画 (次ページ)

内 容  
学習指導要領  
各教科・領域

P00~

指導案

内 容  
学習指導要領  
各教科・領域

指導案

内 容  
学習指導要領  
各教科・領域

指導案

# 体育・健康に関する指導(保健指導・安全指導・食に関する指導等)

## 平成24年度 学校安全教育に関する年間計画

千葉県立東金特別支援学校

項目	月	4月	5月	6月	7、8月	9月
主な行事		<ul style="list-style-type: none"> <li>始業式</li> <li>入学式</li> <li>授業参観・全校保護者会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校集会</li> <li>運動会</li> <li>個別面談 ～6月上旬</li> <li>学校公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校公開</li> <li>全校集会</li> <li>高:前期産業現場等における実習</li> <li>小4、5:宿泊学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中3:職場体験</li> <li>中1、2:宿泊学習</li> <li>1学期終業式</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>始業式</li> <li>スポーツ大会</li> <li>高3:修学旅行</li> </ul>
月の目標	生徒指導 保健指導 給食指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>元気にあいさつしよう</li> <li>規則正しい生活習慣を身につけよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちをふやそう</li> <li>自分のからだの様子を知ろう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身だしなみを整えよう</li> <li>むし歯を予防しよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>落ち着いて生活しよう</li> <li>夏を元気に過ごそう</li> <li>病気の治療をしよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間を守ろう</li> <li>生活リズムを取り戻そう</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>準備や片付けをきちんとしよう</li> <li>よくかんで食べよう</li> </ul>				
安全教育		<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の安全教育の確認(全職員) 4/3</li> <li>自主通学生の通学方法確認</li> <li>既往症の確認(児童生徒の引き継ぎ)</li> <li>定期健康診断の意義と受け方</li> <li>各部新入生歓迎会や学部集会等で安全な生活(年間)</li> <li>手洗い・うがいの励行生活習慣についての指導</li> <li>火災想定の訓練(消防署との連携) 4/24</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動会の注意と約束</li> <li>作業学習における注意と約束</li> <li>火災想定の訓練(寄宿舎)5/28</li> <li>汗の始末・紫外線対策</li> <li>定期健康診断結果に基づく指導</li> <li>携帯電話所持届け</li> <li>歯みがき指導(年間)</li> <li>中:歯科指導5/25</li> <li>高:歯科指導5/28</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校集会(交通安全教室)6/1</li> <li>部活動における注意と約束</li> <li>産業現場等における実習の安全な進め方</li> <li>水遊びの約束(小)</li> <li>水泳指導時の約束と保健</li> <li>身体の清潔(洗髪)</li> <li>交通安全の再確認</li> <li>定期健康診断結果に基づく指導</li> <li>大地震・津波想定避難訓練6/27</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿泊学習の約束確認</li> <li>夏休みの安全な過ごし方(各部部集会等で)</li> <li>梅雨時の健康管理支援</li> <li>夏季休業中の食事・過ごし方</li> <li>第1回防災をテーマとした地域との交流(PTA・北之幸谷地区・消防団)8/4</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>規則正しい生活習慣</li> <li>スポーツ大会における集団行動と安全</li> <li>修学旅行における集団行動と安全</li> <li>第2回防災をテーマとした地域との交流(夜間:北之幸谷地区ボランティア部会・城西国際大学生)9/24</li> </ul>
	4/28通学指導別保護者会	<ul style="list-style-type: none"> <li>通学指導 定例については月一回実施。必要に応じて随時計画</li> </ul>				
スクールバス乗車指導						
家庭・他団体との連携		<ul style="list-style-type: none"> <li>小1:初めての給食、家庭訪問等</li> <li>学級懇談会</li> <li>全校保護者会</li> <li>PTA役員会</li> <li>学校だより発行</li> <li>登下校方法の把握</li> <li>災害時情報カード作成・確認訓練4/28</li> <li>スクールバス緊急カード作成</li> <li>内科検診(学校医)</li> <li>春の交通安全運動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>舍:避難訓練</li> <li>PTA役員会</li> <li>個別面談(保護者)</li> <li>歯科検診、耳鼻科検診(学校医)</li> <li>学校だより発行</li> <li>中:歯科指導</li> <li>学校公開</li> <li>不審者対応訓練(警察署との連携)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開かれた学校づくり委員会(予定)</li> <li>参観週間</li> <li>学校だより発行</li> <li>PTA役員会</li> <li>PTA清掃活動 6/24</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災教育ネットワーク会議(予定)</li> <li>面談</li> <li>学校だより発行</li> <li>PTA役員会</li> <li>舍:夕涼み会(PTA・地域)</li> <li>代表生徒被災地訪問予定</li> <li>PTA広報発行</li> <li>生徒会 防災マップづくり(地域の方々との交流)</li> <li>防災研修会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨時健康診断(学校医)</li> <li>学校だより発行</li> <li>PTA役員会</li> <li>秋の交通安全運動</li> </ul>
安全管理		<ul style="list-style-type: none"> <li>定例安全点検</li> <li>ヘルメットの確認・分配</li> <li>各教室の火元責任者の表示</li> <li>避難経路図作成</li> <li>児童生徒行方不明時の対応、児童生徒理解研修(生徒指導)</li> <li>校内緊急連絡体制(保健指導)</li> <li>スクールバス委員会4/24</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定例安全点検</li> <li>交通災害共済の加入手続</li> <li>通学用自転車の点検</li> <li>グラウンド整備</li> <li>中、高:部活動の安全な運営確認</li> <li>携帯電話所持届け</li> <li>職員清掃活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急事故対応訓練(各部計画中)</li> <li>心肺蘇生法研修会</li> <li>定例安全点検</li> <li>消火器の確認</li> <li>職員清掃活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定例安全点検</li> <li>避難用シーチャーの点検</li> <li>スクールバス委員会</li> <li>心肺蘇生法研修会(心肺蘇生法研修会における応急処置、AEDの使用方法)</li> <li>食と健康・安全委員会</li> <li>道具等の安全点検</li> <li>スクールバス緊急事故対応訓練</li> <li>職員清掃活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定例安全点検</li> <li>通学用自転車の点検</li> <li>中高:緊急事故対応訓練</li> </ul>

項目/月	10月	11月	12月	1月	2、3月
全校行事	・学校公開 ・全校集会 ・小6、中3：修学旅行	・やまもも祭	・駅伝大会 ・全校集会 ・第2学期終業式	・第3学期始業式	・各部入学説明会 ・卒業式 ・修了式
月の目標	生徒指導 保健指導 給食指導	身だしなみを整えよう 目を大切にしよう 好き嫌いしないで食べよう	みんなと協力しよう 体を動かそう	落ち着いて生活しよう 換気をしよう	新しい気持ちでがんばろう うがい手洗いをしよう ・食事のマナーを守って楽しく食べよう
安全教育	・第3回防災をテーマとした地域との交流(北之幸谷地区長寿会)10/5 ・防災教育チャレンジプランアドバイザー事業 ・修学旅行における集団行動と安全 ・目の健康 ・中学部：防災をテーマとした生活単元学習(予定)	・やまもも祭での取り組み 整理整頓 不審者 危険箇所など ・駅伝大会に向けた安全 ・かぜの予防 ・元気な体づくり ・高：防災教育基礎講座(予定)	・冬休みの安全 ・冬休み中の食事・過ごし方(健康な生活の仕方) ・創立40周年記念行事12/15	・うがい・手洗いの仕方 ・教室の換気 ・マスクの着用 ・舍：避難訓練	・社会人になるにあたって エイズ、薬物(大麻)性情報、性犯罪、生活習慣病など ・本校入学にあたっての安全確認と提出書類など ・うがい・手洗いの仕方 ・耳の健康
	・通学指導 定例については月一回実施。必要に応じて随時計画 ・スクールバス乗車指導				
家庭・他団体活動との連携	・学校公開10/6 ・PTA役員会 ・PTA地区の清掃活動10/24 ・開かれた学校づくり委員会(予定) ・学校だより発行 ・防災教育チャレンジプラン中間報告会	・学校だより発行 ・やまもも祭11/19(学校祭)で地域の方々へ ・駅伝大会事前健康診断 ・小：歯科指導11/5・6	・全校集会(ライオンズクラブ) ・面談 ・PTA役員会 ・学校だより発行	・参観週間 ・授業参観 ・PTA役員会 ・学校だより発行 ・開かれた学校づくり委員会(予定) ・防災教育ネットワーク会議(予定)	・開かれた学校づくり委員会(予定) ・PTA役員会 ・学校だより発行 ・防災教育チャレンジプラン最終報告会
安全管理	・定例安全点検 ・消火器の確認 ・農道マラソンコースの安全確認	・定例安全点検 ・中：緊急事故対応訓練 ・遊具等の安全点検 ・暖房の安全確認 ・避難用シャーターの使用体験	・定例安全点検 ・室内換気と安全 ・舍：ボイラー室清掃	・定例安全点検 ・遊具等の安全点検 ・年度の安全計画・活動を振り返って(各分掌) ・室内換気と安全	・定例安全点検 ・空気・照度検査 ・スクールバス委員会 ・食と健康・安全委員会(24年度の安全計画・活動を振り返って、次年度に向けて)

## 生活<健康・安全>シート

学部 名前( )



# 防災教育

	小学部	中学部	高等部	寄宿部
合わせた指導	日常生活の指導 帽子をかぶることに慣れる 靴の着脱ができるだけ早くできるようにすること	教師の言葉やサインを見聞きして、それに応える 防災に関する活動を行う 各種避難訓練(火事、地震など) 生单(キャンドルを作ろうなど) 自分の役割を理解して、担った活動を行う 自分のやりたいことに進んで取り組む 友だちと協力して活動する 時間や約束、決まりを守る	来校者にあいさつ 靴を履く(逃げるために) 寒い日は上着を着る 手洗いうがい(避難生活)	布団を敷いたり片付ける 就寝 排せつにすること 衛生にすること 洗面・歯みがき 掃除(雑巾がけ、ゴミ捨て) 配膳すること 食事にすること 更衣にすること 入浴にすること きまりを守ること あいさつ・返事 余暇の過ごし方 持ち物の管理 日直や係の仕事 金銭の管理 携帯電話・ゲーム機の使用
	生活単元学習 遊びの中で十分に身体を動かす コミュニケーションボードの読み取り			
	作業学習		(縫工)防災リュックの作製 (園芸)仮設住宅に届ける寄せ植え (6作業班)東北の支援学校との交流 でお互いの作業製品を紹介する	
教科指導	国語・算数(数学) 教師の話を聞くこと	集団で行動する ルールを守る 安全に注意した生活 身近な社会の仕組みや公共でのマナーの理解	避難放送や避難場所の理解 緊急時の電話番号 重さの理解(体重の4倍は危ない) 水分補給のタイミング 避難する体力 頭を守る(ソフトボールのヘルメットや炎天下で帽子をかぶる)大きな声を出す (美術)防災マルチパーテーションの作成 防災ピクトグラムのデザイン (音楽)震災関連の合唱「しあわせ運べるよう」 (家庭)保存食を活用した調理 賞味期限がわかる (情報)e防災マップを利用した防災安全マップ作り	
	保健体育 ルールや集団を意識してたくさん身体を動かす			
	音楽			
	情報			
	美術			
	職業家庭			
領域の指導	自立活動	自分の気持ちを言葉やサインで伝える 相手の伝えたいことを理解する 自分の考えをみんなの前で話す	(進路タイム)災害時のコミュニケーション (身体)抱えられる おぶられる体制	
	特別活動 教師や友だちと一緒に落ち着いて移動したり、活動したりする		(集会)学年生徒指導や自主通学生徒を対象とした集会で長期休業中の生活や防災安全について学ぶ	
	総合的な学習の時間		(演劇グループ)寸劇で東北パフェを作ろう 防災劇で釜石東中が作ったてんでんこレンジャーを参考にする	

平成24年5月11日

保護者様

千葉県立東金特別支援学校  
校長 薄井久雄

## 「大地震発生時等の対応について」

新緑の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日ごろから本校の教育活動に、ご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。昨年度に引き続き、防災教育チャレンジプランの実践団体として一人一人を大切にする防災教育活動に取り組みますので、ご協力をお願いいたします。また、大地震発生時等の対応について、以下の対応をさせていただきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

○原則として以下の場合には児童生徒の引き渡しとします。

- ・学区内の二市四町（東金市、山武市、大網白里町、九十九里町、横芝光町、芝山町）において震度5弱以上の地震が発生した場合。
- ・国及び県から大地震に対して「警戒宣言」が出された場合。
- ・震度に関わらず、通学経路（スクールバスやJRなど）に損傷や液状化などが見られ、通常の下校が難しいと判断された場合。

※お子様が下校していない場合は、学校へおいでください。

※建物の倒壊等があり、校内にいることが危険と判断した場合には、引き渡し場所を校地外に変更します。その場合には、移動先を正門に掲示します。

※学区内で地震がなくても津波警報が発令された場合、スクールバスは、運行途中でも学校に戻ります。

○在宅時に大地震が発生した場合には登校させないでください。

○登下校の通学中に地震が発生した場合は、発生した場所や通学方法等により対応が異なってきます。

- ①帰宅する ②学校へ向かう ③発生した場所で待機 ④近くの避難所に行く

上記①～④のいずれかになると思いますが、避難の方法や避難場所の確認、連絡手段等について、各家庭で十分に話し合って確認しておいてください。また、放課後預かりサービスを利用の場合は、学校での把握が困難ですので、利用しているサービスの事業所と話し合っておいてください。

※なお、登下校時の対応については、様々なケースが考えられますので、「災害時情報カードⅡ」により確認をします。

(想定例)

- ・スクールバス停に送ったあと、保護者が学区外の遠隔地に仕事に向かい家庭に誰もいなくなる。
- ・駅まで自転車、その後JRを乗り継ぎ、東金駅からは徒步など交通機関が多岐にわたる場合。

大災害時は、電話やメール等での連絡が一切できないことが予想されます。そのような場合に備え、近隣にお住まいの本校児童生徒のご家庭と連絡ができるようにしておくことも災害の備えにつながります。地区PTAとのつながりを大切にしてください。

また、「まちcomiメール」の登録をされていない方は、備えの一つの方法として、ご加入をご検討ください。

## 災害時情報カード I (引き渡し確認)

- ※ 災害時は、連絡がなかなか取れないことがあります。電話番号についてはご自宅の他に、携帯電話や勤務先などの連絡がつきそうな場所も記入してください。また、連絡がつきやすい順に記入をしてください。
- ※ このカードは厳重に保管し、災害時以外には使用しません。
- ※ このカードは卒業時まで使用します。年度初めに確認をしますが、変更が生じた際は、すみやかに担任まで連絡をしてください。

児童生徒名				自宅周辺の避難場所		
学部、確認・変更年月 ( 小学 ) 部	( 確認 ) 年 月	( 変更 ) 25年10月	( ) 年 月	( ) 年 月	( ) 年 月	( ) 年 月

○災害発生時に引き渡しに来られる方。(可能性がある方をお書きください。)

引き渡しに来られる方の氏名	続柄、関係など	所要時間 (目安)	連絡の手段(自宅、会社、携帯電話、メールなど、できるだけ複数を記入)
東金花子	祖母	徒歩で 30分	自宅 0475- 携帯 080-
東金太郎	兄	自家用車 15分	携帯 090- 携帯メール togane@tarou 株式会社〇〇 0475-

○引き取り確認欄

年月日 署名	引き渡し者 署名	身分証明 有無	確認者名 時刻	年月日	引き渡し者 署名	身分証明 有無	確認者名 時刻

## 災害時情報カードⅡ（登下校時）（記入例）

※このカードは厳重に保管し、災害時以外には使用しません。

※このカードは卒業時まで使用します。年度初めに確認をしますが、変更が生じた際は、すみやかに担任まで連絡をしてください。

学部名	小 中 高	児童生徒名	東金 太郎
-----	-------	-------	-------

【登校時】（裏面に下校時）

該当 に○	通学方法	確認項目	避難場所などの確認内容
	保護者送り	・送迎の方法 ・経路の避難場所 ・連絡方法	(自家用車) (○○小学校) (例：携帯電話 まち comi)
○	スクールバス コース名( )	・バス停付近避難場所 ・連絡方法	( ) (例：携帯アドレス××@△△)
	スクールバス停まで 自主通	・自宅からバス停までの避難場所 ・連絡方法（本人） ・連絡方法（保護者）	(一か所でも可) ( ) ( ) ( )
	サービス利用 ・事業所名( )	・事業所との確認内容 (経路の避難場所等) ・連絡方法（保護者） ・連絡方法（事業所）	( ) ( ) ( ) ( )
	自主通 徒歩 ・経路 (家～学校 ) (家から○○駅 ) (家～△△バス停 )	・家を出る時間 ・経路の避難場所 ・連絡方法（本人） ・連絡方法（保護者）	( ) ( ) ( ) ( )
	自主通 自転車 ・経路 (家～駅 ) ( )	・家を出る時間 ・経路の避難場所 ・連絡方法（本人） ・連絡方法（保護者）	( ) ( ) ( ) ( )
	自主通 JR (日向～成東 )	・乗車下車時刻 ・乗換駅と待ち時間 ・連絡方法（本人） ・連絡方法（保護者）	(乗車 下車 ) ( ) ( ) ( )
	自主通 バス (○○交通バス △線 )	・乗車下車時刻 ・バス停付近避難場所 ・連絡方法（本人） ・連絡方法（保護者）	(乗車 下車 ) ( ) ( ) ( )
○	その他 (雨天時は、保護者が送迎します。 )	・	(祖父の自家用車 ) (祖父の携帯電話 ×××

※携帯を含む電話番号については、お預かりしている災害時情報カードに記載されているため、このカードに記載をする必要はありません。

※複数を利用する場合は、全てに○を付け確認をしてください。

## 【下校時】

該当 に○	通学方法	確認項目	避難場所などの確認内容
・	保護者迎え	・送迎の方法 ・経路の避難場所 ・連絡方法	(自家用車) (○○小学校) (例:携帯電話 まち comi)
○	スクールバス コース名( )	・バス停付近避難場所 ・連絡方法	(一か所でも可) ( ) (例:携帯アドレス××@△△)
	スクールバス停まで 自主通	・バス停から自宅までの避難場所 ・連絡方法(本人) ・連絡方法(保護者)	(登校時に同じ) ( ) ( ) ( )
○	サービス利用 ・事業所名(マナの家 等) (水金のみ)	・事業所との確認内容 (経路の避難場所等) ・連絡方法(保護者) ・連絡方法(事業所)	(サービス利用時に津波警報が出た場合は、九十九里町から車で東金に移動し、○○で待機する) ( ) ( )
	自主通 徒歩 ・経路 (学校～家) (駅～家) (バス停～家)	・家に着く時間 ・経路の避難場所 ・連絡方法(本人) ・連絡方法(保護者)	( ) ( ) ( ) ( )
	自主通 自転車 ・経路 (家～駅) ( )	・家に着く時間 ・経路の避難場所 ・連絡方法(本人) ・連絡方法(保護者)	( ) ( ) ( ) ( )
	自主通 JR (日向～成東)	・乗車下車時刻 ・乗換駅と待ち時間 ・連絡方法(本人) ・連絡方法(保護者)	(乗車) 下車 ( ) ( ) ( )
	自主通 バス (○○交通バス △線)	・乗車下車時刻 ・バス停付近避難場所 ・連絡方法(本人) ・連絡方法(保護者)	(乗車) 下車 ( ) ( ) ( )
○	その他 (月、木、金は別の△△サービスを利用して下校します。)		
○	保護者の勤務地において、震度5弱以上の地震が発生した場合には、引き渡しを希望します。 ・勤務先市町村名( 千葉市美浜区 ) ・勤務先名称( □□株式会社 ) ・電話番号( ) ・その他の希望等( 液状化等で交通手段が遮断された場合には引き渡しを希望します。 )		

平成24年7月13日

保護者様

千葉県立東金特別支援学校  
校長 薄井久雄

## 「土日や長期休業中における大地震発生時等の対応について」

### (災害時情報カードIIIの記入のお願い)

盛夏の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日ごろから本校の教育活動に、ご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

防災教育チャレンジプランの取り組みとして、7月17日～19日まで、高等部生徒会の代表が東北の特別支援学校等を訪問します。8月22日(水)13:00～本校食堂で行う防災教育講演会で生徒が発表します。ご都合がつきましたら、ご参加をお願いいたします。また、8月25日(土)のPTA防災をテーマとした地域との交流への参加もご検討ください。どちらも申込〆切日を過ぎていますが、ご連絡をいただければ参加が可能です。(高等部 滝川宛にて)。

大きな災害が起こった場合の安否確認は、徒歩で数日がかりになることが予想されます。手掛かりとなる情報を共有させていただき、一刻も早い安否確認ができるようにしたいと考えています。土日や長期休業中における大地震発生時等の対応について下記のように作成をお願いいたします。

#### 記

##### 1. 作成

土日や長期休業中における大地震発生時等の対応について、災害時情報カードIIIを作成しました。別紙への記入につきまして、ご協力をお願いいたします。

##### 2. 提出

7月20日(金)としますが、ご家庭でよく話し合ってから提出をしてください。

##### 3. その他

- ・2部作成して、1部は学校へ提出、1部はご家庭に保管をお願いします(学校提出用に写真等を貼る必要はありません)。
- ・ご家庭でのことが主になりますので、可能な範囲でご記入してください。全ての項目について記入する必要はありません。

## 災害時情報カードⅢ（土日や長期休業等）（記入例）

※このカードは厳重に保管し、災害時以外には使用しません。変更が生じた際は、すみやかに担任まで連絡をしてください。

ご家庭で十分に話し合ってから提出をしてください（2部作成し、1部学校、1部家庭で保管）。

学部名	小 中 高	児童生徒名	東金 太郎
-----	-------	-------	-------

### 【一次避難】 家屋内及びグランドや公園の指定一次避難場所

家屋内で気を付けること（寝る場所や家具の固定、ヘルメット常備など）

※ポイント：落ちてこない 倒れてこない 移動してこない

寝室にヘルメットや靴を置いている

車椅子にヘルメットを常に付けている

テーブルの下に隠れて脚をつかむ

寝ていたら布団をかぶる

大雨の時は2階に上がる

ヘルメットや家屋内の避難場所の写真

※災害の種類や家庭の状況で、いろいろと異なると思います。

※写真やイラストはご家庭用で、必要に応じて入れてください。

家屋外の避難場所の名称や注意点（公園や小学校など）

逃げる時に持っていくものは防災リュック

逃げる時には必ず靴をはく

持って逃げる  
防災リュックの写真

裏の公園の写真  
(指定一次避難場所)

小学校の写真  
(指定一次避難場所)

**【二次避難 その1】**市町村指定の行政職員が常駐する避難収容所や福祉避難所等

ふれあいセンター

二次避難で、一番お子さんに伝えた  
い場所の地図や写真（本人が所持して  
いるヘルプカード等に記載しておく  
こと等を検討するでもよい）

**【二次避難 その2】**津波警報が出た場合の避難

避難の手段

自転車で文化会館へ

避難場所

文化会館の駐車場

津波が来たら逃げるのは

中学校

近くの津波避  
難ビルの写真

**【二次避難 その3】**家族が別々の場所にいる時の集合場所

連絡方法

災害伝言ダイヤル171 災害伝言板

集合場所

ふれあいセンター（その1と同じ）

家族がバラバラの時は市

役所に集合

市役所の写  
真

**【三次避難】** 土日や長期休業中等に大きな災害が起った場合は、安否確認をします。県外を含む遠方のご親戚等に避難される可能性がある場合は、お知らせください。

①	氏名 鈴木 方	住所 新潟県上越市〇〇
	携帯電話やメール等の連絡先 祖父携帯 080-△△-△△	
②	氏名	住所
	携帯電話やメール等の連絡先	

**【その他】**

ヘルプカードやSOSカード の所持（お子さんが携帯）	している	していない
-------------------------------	------	-------

※各市町村や障がい者協会等において、災害時や日常生活の中で困ったときに、適切な対応を周りの人  
に知っていただくために作成されているものです。「ヘルプカード」の他に、「助けてカード」「SOS  
カード」などの名称で作成されています。

市町村の災害時 要援護者名簿の登録	している	していない
----------------------	------	-------

※災害時要援護者とは、大地震などの災害が起きた時に、自力で避難することが難しく支援を必要とす  
る方のことです。市町村によって、名簿登録の仕方や対応は異なり、準備中のところもあります。登  
録をすることで、避難計画が作成されたり、警察・消防、民生・児童委員、地区・自主防災組織など  
に情報が提供されたりします。

## 災害時に備えた医薬品の保管と使用介助について（案）

食と健康・安全委員会

1 目的 地震や津波などの災害時に帰宅困難となった場合に備え、医薬品を保管する。また、依頼に基づき医薬品の使用介助を行う。

2 書類 様式8 「災害時における医薬品の使用介助依頼書」（別紙参照）

3 対応の原則

- ①対象は、災害時に帰宅困難となった場合に、医薬品の使用が必要となる児童生徒で、依頼のあった者。
- ②校内での一泊を想定して、（夕、就寝前、朝）の薬を預かる。
- ③薬は、依頼書と一緒に提出してもらう。依頼書は、途中で変更がない限り1年間有効とする。
- ④薬は1回分ずつチャック付きの小袋に入れ、袋に氏名と時間帯（夕、寝る前、朝）を記入してもらう。（別紙参照）
- ⑤薬と依頼書は、個人別の封筒に一緒に入れて保管する。（別紙参照）  
保存方法は、常温と冷蔵庫。※常温の場合は、密閉容器に乾燥剤を入れ温気に注意する。
- ⑥薬は年度始めに預かり、特に連絡がない場合は、年度末に返却する。災害時用なので、なるべく出し入れしない。  
なお、途中で薬が変わった時や期限が切れる場合、保護者は速やかに学級担任に連絡し、責任を持って入れ替えるようにする。
- ⑦災害時は混乱が予想されるので、生命にかかるような欠かすことのできない薬に限り預かる。市販薬は預からない。また、水以外での服用は要相談とする。
- ⑧薬の回収、保管、返却は、保健室が担当する。
- ⑨保管場所は、保健室。寄宿舎生は、普段の予備薬を災害時用と兼ね、寄宿舎で保管する。

様式8

災害時における医薬品の使用介助依頼書

平成 年 月 日

千葉県立東金特別支援学校長 様

児童生徒氏名  
保護者氏名 印

災害時において医薬品の使用が必要なため、下記のとおり介助をお願いします。

記

いつ(時間)	薬の名前	何の薬	種類(形態)	量
夕 例) 夕食後	デバケン	抗けいれん剤	白・粉末	1包
就寝前				
朝				

例) 少量の水に溶かして、スプーンで飲ませる。

飲み方

保管方法 常温 冷蔵庫 その他 ( )

注意事項

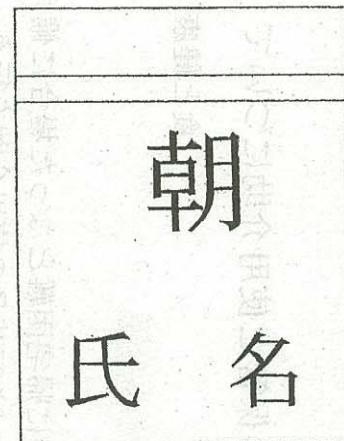
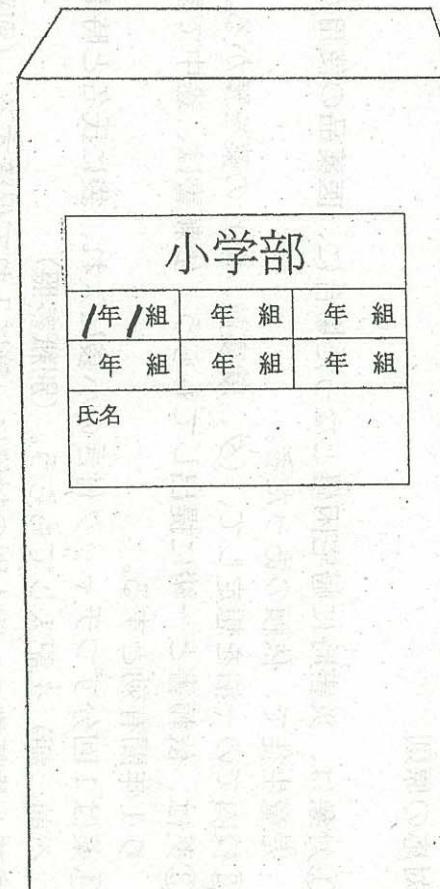
医療機関名

\* 1回分ずつの薬をそれぞれ袋に入れて、氏名・朝夕等の区分を明記して預けてください。

学校職員チェック欄

介助終了→保健室保管

月 日～日	夕	就寝前	朝	備考
	印	印	印	印



保管用封筒

様式 8

## 災害時における医薬品の使用介助依頼書

平成 年 月 日

千葉県立東金特別支援学校長 様

児童生徒氏名

保護者氏名

印

災害時において医薬品の使用が必要なため、下記のとおり介助をお願いします。

記

	いつ（時間）	薬の名前	何の薬	種類（形態）	量
夕	例) 夕食後	デバケン	抗けいれん剤	白・粉末	1包
就寝前					
朝					
( )					
飲み方	例) 少量の水に溶かして、スプーンで飲ませる。				
保管方法	常温	冷蔵庫	その他 ( )		
注意事項					
医療機関名					

※1回分ずつの薬をそれぞれ袋に入れて、氏名・朝夕等の区分を明記して預けてください。

学校職員チェック欄

介助終了→保健室保管

	夕	就寝前	朝		備考
月 日～ 日	印	印	印	印	

平成24年11月 日

保護者様

千葉県立東金特別支援学校  
校長 薄井久雄

### 災害時における医薬品の保管及び使用の介助について（お知らせ）

紅葉の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

日ごろより、本校の教育活動にご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、本校では、防災に関する様々な取り組みをしておりますが、この度、地震や津波などの災害時に帰宅困難となった場合に備え、医薬品の保管及び使用介助を実施することになりました。

つきましては、下記事項をご理解の上、お手続きをお願いいたします。

なお、災害時は混乱が予想されますので、生命にかかるような欠かすことのできない薬に限らせていただきますので、ご了承ください。

#### 記

##### 1 対象となる児童生徒

災害時に帰宅困難となった場合に医薬品を使用する必要のある児童生徒

##### 2 書類

様式8「災害時における医薬品の使用介助依頼書」

##### 3 手続き

①薬は依頼書と一緒にお出しください。依頼書は、途中で変更がない限り1年間有効とします。

②校内での一泊を想定して、（夕、就寝前、朝）の薬を預かります。

③薬は1回分ずつチャック付きの小袋に入れ、袋に氏名と時間帯（夕、寝る前、朝）を記入してください。

④水以外での服用はできません。（水以外は相談させていただきます）

⑤年度途中で、薬の変更や期限が切れる場合は、担任に連絡し入れ替えをお願いします。

⑥次年度より、薬は年度始めに預かり、特に連絡がない場合は、年度末に返却します。

##### 4 その他

①寄宿舎生は、寄宿舎の予備薬を災害時用と兼ねますので、手続きは必要ありません。

②医師が処方した医薬品のみお預かりします。市販薬はお預かりできません。

③何かご不明な点がありましたら、保健室にご連絡ください。

## 防災をテーマとした地域との交流計画（案） 8／25（土）

千葉県立東金特別支援学校 P T A 厚生部

目的 防災をテーマとして地域との交流を図る。

災害に対する備えとして、避難から避難所開設までを経験する。

一次避難場所として、また福祉避難所としての本校の在り方を検討する。

※ 実際に災害が起きた時のことを想定して、できるだけ事前の準備は行わず、安全に留意をしつつ、

臨機応変な対応を心がける。

参加者 東金市総務課消防安全係 東金市消防団 約15名

北之幸谷区（ボランティア部会（長寿会） 子ども会 等） 約30名

P T A 厚生部（参加希望のある本校児童生徒 約50名）

職員（企画会職員 防災・安全係 地域支援・交流教育係 生徒指導・通学指導係）約25名

※ 係で参加が難しい職員、厚生部保護者の児童生徒の対応として参加していただける学級担任は  
（ ）までお知らせください（半日の配慮）。職員事前打合せ8／20 13：00～

時 刻	活 動 内 容
9：00	駐車場への誘導（ P T A 生徒指導・通学指導係） 消防車両（2台校門脇 2台グラウンド）
9：30	消防団により体育館へ避難の広報（避難所開設をするという案内） 体育館にマイク設置（ポータブル）（担当： ） 1次受付 体育館入口にて振り分け（体育館及び校舎内には靴のまま入る） 消防団1名、北之幸谷区1名、学校（ ） アドバイザー：市職員、校長 生徒はガムテープの名札・北之幸谷区は腕章名札・職員と保護者は持っている名札着用 ※受付用テーブル（6つ） 筆記用具 扇風機等は 9：00より分担して準備しておく。 戻す場所がわかるようにテープとマジックも用意する。 (名簿と腕章名札等は前日までに準備をしておく) 2次受付 集計表で人数確認後 カレー作成数の確認 保護者・児童生徒名簿受付 (P T A 高1： さん、 さん 中： さん) 地域一般受付 (ボラ部会 子供会) 行政（消防）、職員受付 ( P T T ) ○受付名簿は津波避難ガイドラインよりコピーを使い終了後は破棄する（印刷はしておく）。 行政、職員受付は簡略化し自身の氏名のみ記載する。 ○まとまって座るように指示をする。 ※体調が優れない方、体温調節が苦手な方等は教室で待つ等の配慮をする。（ T ） リズム室 高、小の重複学級の部屋
10：00	(全体調整、進行補助： ） ○開会（体育館） (進行 P T A : 中 さん、 さん) ・薄井校長先生のあいさつ（あいさつの中で来ている方々の紹介をする 市役所総務消防 安全係職員 北之幸谷区ボランティア部会と子供会 東金市消防団の団長 分団長 班長) ・P T A会長あいさつ ・避難所長の任命

10:15	分担と流れの確認（）		
	10:15 炊き出し（雨天時は調理室） ※炊き出し事前準備（　、　、　、　） 9:30～準備 場所は体育館の水場近くに変更する	10:30 避難所開設 ○グループ確認（　） グループは申告制とするが、本校の家族はまとまる。4人家族が2人ずつ分かれる等は可。小学生1、2年は福祉避難所を勧めてみる。	
10:45	※調理関係はボランティア部会とPTA厚生部で協力して行う。（厚生部保護者の児童生徒は職員と一緒に避難所開設をする） 調整職員（MT T T） ※火起こし関係は職員（男性） ※炊き出しの場所は体育館裏？（水場を考えて）届け出は必要なし（確認済） ○メニューはカレーライスとスイカ（浅漬けは季節柄、取りやめる） ご飯準備が落ち着いたらスイカを切り、配る。 食材はPTAで購入 ○調理器具は大型のものを地域から借りるようする。不足の物は学校調理室より（・アレルギー対応が必要な生徒が参加する場合は、事前に確認し準備をしておく。） ⇒なし	体育館 一般避難所イメージ 目標：テント張り（焼き出しの配ぜん用も） 食事場所の確保 交流 ○扇風機（事前に準備） リーダー（ T ） ○活動内容 ・グラウンドにテントと椅子設置（鉄棒付近と体育館裏） ・食事場所環境整備 食事のための簡易テーブルを工夫する 詳細は当日に相談して決める ・交流ゲーム リーダー（ T T ）	リズム室と各教室 福祉避難所イメージ 目標：リラックス 様子から食事場所確保 交流 ○エアコン利用 リーダー（ T ） ○活動内容 ・リズム室で交流（イメージは小の遊び） リーダー（ T T ） ・並行して、動ける人で、教室等で食事ができる環境を整える。 リーダー（ T ）
11:15	完成した食事を配布する。 ・消防団、本校児童生徒を優先に食事を配布 ・焼き出し材料（木端）やごみ処理等の片付けについて（ T T ）		
12:10	消防団の演技（操法訓練）見学（グランド） 雨天グラウンドで実施（見学は体育館かC棟） ○閉会 ・避難所長解任のあいさつ（　） ・関係団体の代表による感想発表（ボランティア部会）（子供会）（本校児童生徒・保護者）（消防団） ・お礼のあいさつをPTA厚生部長		
※片付けはPTA厚生部と職員でできるだけその日のうちに使う。			

# 平成24年度 第3回全校集会実施計画（案）

平成24年9月18日

児童・生徒会係

1 ねらい：東金市北之幸谷地区の長寿会、ボランティア部会の方々をお招きし、交流を図る。  
防災について考える機会とする。

2 日 時：平成24年10月 5日（金）9：50～10：40

3 場 所：体育館

4 展 開 司会、号令：児童生徒会役員

時間	活動内容	全校への協力依頼	備考
9：40	○校内放送で集会の始まりのアナウンスをする。（児童生徒会役員）	・児童・生徒会役員は9：10までに体育館に集合し、準備を行う。	
9：50	○体育館に姉妹学級で集合する。 ・各姉妹学級をグループ名で呼び、出欠確認をする。（児童生徒会役員）	・東金市北之幸谷地区の長寿会、ボランティア部会の方々に体育館で待機いただき、一緒に参加していただきます。 ・名札（ガムテープ）を胸に付け、姉学級は妹学級を迎えて行き、一緒に体育館に集合してください。 ・役員が各姉妹学級のプラカードを持って立っていますので、それを目印に集合してください。 ・グループ名を呼びますので、大きな声で返事をお願いします。	パイプイス (脚) プラカード 名札 (ガムテープ)
9：52	○はじめの言葉（児童生徒会役員）	・復唱などをして始まりがわかりやすいようにしてください。	
9：53	○校長先生の話	・東金市北之幸谷地区の長寿会、ボランティア部会の方々の紹介も含んでお願いします。	
9：57	○東金市北之幸谷地区の長寿会、ボランティア部会の方々を各姉妹学級の代表者が迎えに行く。 ・長寿会・ボランティア部会の皆さんと姉妹学級で自己紹介をし合う。	・各姉妹学級の座る場所に写真カードを置いておきますので、その写真と同じ色の花やリボンを付けている方を、迎えに行き定位位置に戻り、一緒に座ってください。	写真カード 花、リボン パイプイス
10：07	○姉妹学級ゲーム ・ゲーム説明（児童生徒会役員）		
10：10	・姉妹学級に分かれ、各グループ毎に指令されている特別教室へ行く。 ・校内放送で緊急放送（地震）が流れたら、安全な場所に避難する。 ・避難解除放送が流れたら、特別教室より、防災関連グッズを取って体育館に戻る。	・勝敗を競うゲームではなく、交流を図るためのゲームです。移動の際、ペアを作ったり、外部の方と話をしたりして親睦を深めるようにしてください。（児童生徒会役員も姉妹学級に入ります。）	指令カード (文字や写真で場所が示されているもの) (防災関連グッズの写真) 防災関連グッズ

10:15	<p>○校内放送で緊急放送（地震）が流れる。</p> <p>・近くの教室の机の下などに避難する</p> <p>○避難解除放送が流れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・再度、活動（ゲーム）に戻る。</li> <li>・体育館に戻り、定位置に座って待つ</li> </ul> <p>持ってきた防災関連グッズは自分たちの座る場所に置いておく。</p>	<p>・安全な場所で待機ください。</p> <p>・指令場所にて防災関連グッズを取り次第、体育館に安全に気をつけ戻ってきてください。</p> <p>・グループによって体育館に戻ってくる時間に差が出ると思いますが、定位置にて東金市北之幸谷地区の長寿会、ボランティア部会の方々と共に姉妹学級で待機してください。</p>
10:20	○児童生徒会役員の質問に答える。	・緊急放送が流れた際、 <u>どこにいたのか</u> 、 <u>どのように避難をしたか</u> など、質問しますので、挙手をお願いします。（全グループから話を聞きたいと思いますので、よろしくお願いします。）
10:28	○東金市北之幸谷地区の長寿会、ボランティア部会の方から感想を聞く。	・東金市北之幸谷地区の長寿会、ボランティア部会の各代表の方から感想をお聞きます。
10:32	○40周年記念事業について (梅澤先生)	・日時や内容について、復唱などをして知させてください。
10:37	○東金市北之幸谷地区の長寿会、ボランティア部会の方々の退場。	・校長先生の先導で退場していただきます。拍手をお願いします。
10:39	○次回予告（児童生徒会役員） ・次回は、12月19日（水）に「全校集会」を行うことを知る。	・次回の集会の日時を復唱などして知させてください。
10:40	○終わりの言葉（児童生徒会役員）	・姉妹学級で解散となります。妹学級は妹学級を教室まで送ってください。

## 5 その他

- ・事前の準備や後片付けは、10月1日（月）～10月5日（金）の昼休み（12:40～13:10）に小会議室や体育館にて行う。
- ・参観週間の初日となりますので、何人かの保護者の方が見に来られる可能性があります。

# 高等部自立活動 学習指導案

場 所 会議室

日 時 平成 24 年 7 月 12 日 (木) 13 時 10 分 ~ 13 時 50 分

授業者 石橋 (T1) 瀧川 (T2) 子安 (T3) 年光 (T4) 野本 (T5) 近藤 (T6) 百瀬 (T7)

- 1 題材名 「自分の意見を言おう！友達の意見から、学ぼう！」  
～夏休みの生活や災害に関連させて～

## 2 題材について

今年の2年生は、これまでの取り組みの様子を見ていると、環境の把握面やコミュニケーション面で、自分で状況を理解して会話のやりとりができる生徒が3名、簡単な状況であれば教師が支援することで内容を理解することができる生徒が11名、発語はないが表情や身振り手振りで感情を伝えることができる生徒が3名の計17名で構成されている。その中で、進路タイムは自立活動を位置づけとして、個々の実態を基に卒業後の進路を考え、就労グループ、作業所グループ、施設グループの3グループに分け、取り組んでいる。それぞれのグループにあったコミュニケーション面の指導内容を精選し、卒業後に役立つように授業を行ってきた。本単元は、長期休業中等で外出時に起きた災害の対応について生徒自身が考え、話し合っていくものである。

## 卒業後の進路を意識して

今回授業を行う就労グループは6名いる。主な授業内容としてあいさつや返事、報告、連絡など基本的な内容から電話の応対の仕方等、自立活動の内容の「環境の把握」や「コミュニケーション」、「人間関係の形成」に重点を置いて指導を行ってきた。その中で、問題に対して教師がすぐに答えるのではなく、生徒自身に考えるようにしてきた。自身の考えを発表し、話し合うことで発信する力や他者の話を聞く力を身につけることを目的に取り組んできた。習得した能力を学校内だけでなく、自宅にいる時や外出している時など一人でいる時、そして卒業後に活用できるようにしたい。

## 1 学期の活動

昨年度の後期現場実習でグループの生徒全員が校外の実習を行った。実習先の評価として、作業面よりもコミュニケーション面での評価が低い生徒がほとんどであった。その為、前期産業現場等における実習が6月にあることから、実習の場面を想定した内容に取り組んできた。人との関わりの中であいさつや返事、報告、連絡の大切さを説明し、実習先で考えられる会話のやりとりについて考えるようにしてきた。言葉だけでなく、会話のやりとりが予想される状況の絵等の視覚的学習や模擬面談等の体験的な学習に取り組むことで、徐々に場に応じたあいさつができるようになってきた。

## 災害が起きた時に自分で判断して行動できるように

今回取り組むのは、災害時の対応についてである。昨年の東北大震災時の津波到達した範囲に当てはめると本校はもちろん、海岸近辺に在住する生徒も多く、より被害が拡大すると思われる。7月22日から夏期休業に入り、自主通学生の生徒は一人や友達と様々な場所で活動することも想定される。その為、夏期休業中の生徒の事故防止や安全を考え、生徒指導とともに防災教育について取り組むこととした。防災安全を意識して生活できるように、様々な場面を設定し、そこで起こる事故や災害について考え、話し合うようにしていく。生徒がより関心をもって取り組むことができるよう、生徒が外出する場所や修学旅行で予想される事故など、身近な場面でありえる災害を想定した。各災害について対応を考える中で、環境を把握する力や一人でも災害時に自分の身を守ることができる力を身につけていきたい。また、数人のグループ構成で話し合いの場を設定することで、自分の意志を伝える力、他者の意見を聞く力も身につけてほしい。そして、話し合った意見をまとめ、お互いに協力し助け合う力を身につけてほしいと願っている。

## 3 単元の目標

- ・災害等、状況を判断して行動することができる。
- ・災害等、困った時に自分の気持ちを伝えることができる。

- ・友達や教師の意見を聞いて、話し合うことができる。

#### 4 単元（題材）の計画

○指導計画 総時数 13 時間（本時 5 / 13 時間）

月／日（曜）	活動内容
5／24（木） 31（木）	各学年で内容計画、指導。
6／28（木） 7／5（木） 12（木） (本時)	・休業中や災害時の対応の仕方やコミュニケーションのとり方について①
10／4（木） 11／8（木） 11／29（木） 12／19（水） 1／17（木） 24（木） 31（木） 3／19（火）	各学年で内容計画、指導。 ・休業中や災害時の対応の仕方やコミュニケーションのとり方について② 各学年で内容計画、指導。 ・休業中や災害時の対応の仕方やコミュニケーションのとり方について③

#### 5 本時の展開

##### （1）目標

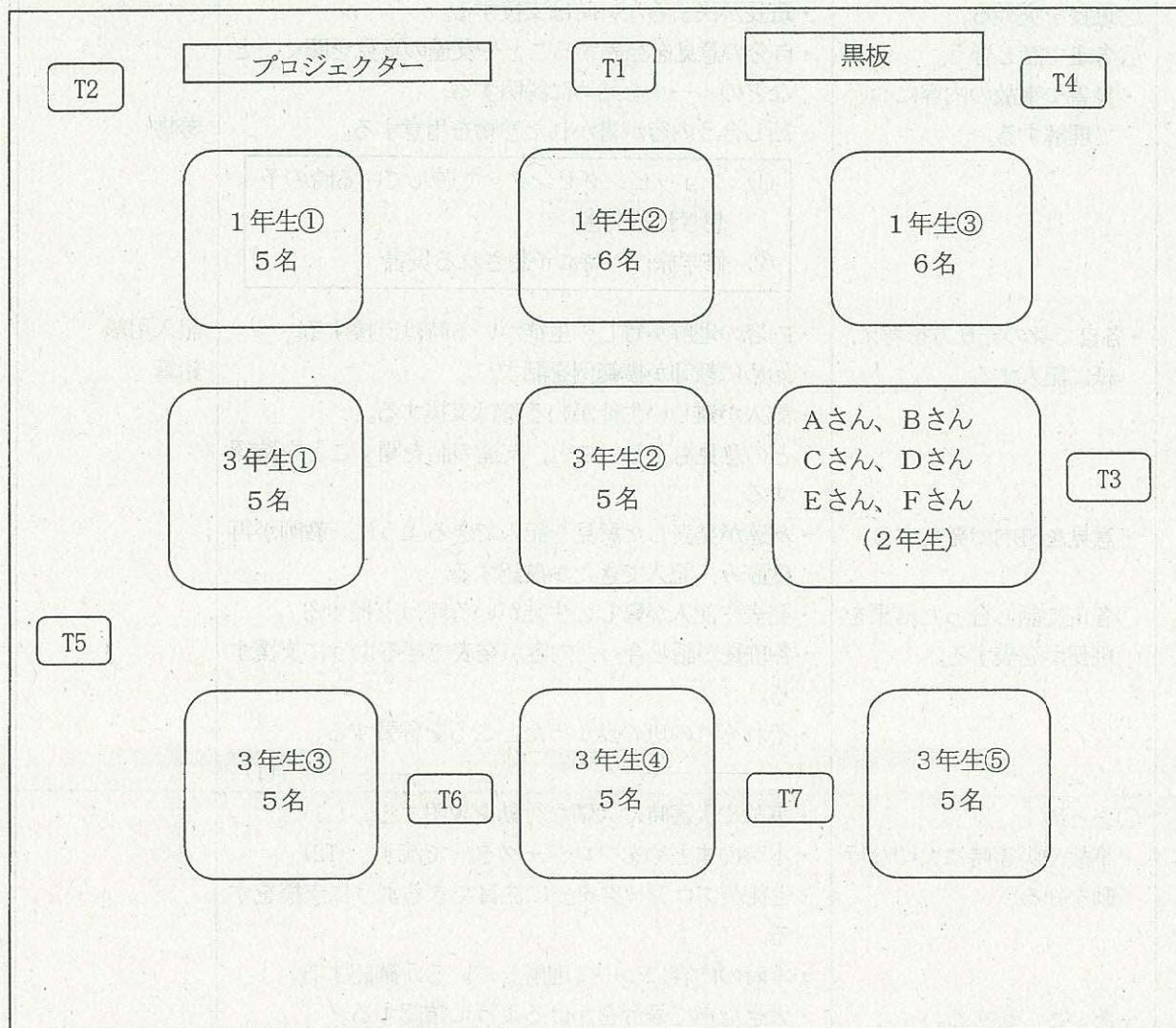
- ・いろいろな災害について知ることができる。
- ・災害にあった身の守り方について、自分の意見を班内の友達に発表することができる。
- ・友達や教師の話を聞いて理解することができる。

##### （2）展開

時配	学習内容と活動	指導・支援上の留意点 教師の役割、手立て	備考 教材・教具
5	○始めの会をする。 ・あいさつをする。 (Cさん) ・出席をとる。 ・緊急地震速報を聞く。 ・津波警報が出た時に、どうするか考える。 ・本時の活動内容がボーソーゲームであることを知る。 ・各班の活動場所に移動する。	・Cさんに号令をかけるように確認する。 (T1) ・大きな声で返事をするように確認する。 (T1) ・緊急地震速報を流す。 ・状況を想像しやすいように津波で災害を受けたいいくつかの場所の写真を流す。 ・例を出し、考えるようにする。 ・始めに防災がプロジェクターで災害の時の映像を流し、本時のテーマが防災教育であることがわかるようする。 (T2) ・本時の活動内容を話す。 (T1) ・生徒が T1 に注目できるように支援をする。 (T3) ・各班の場所が書かれた紙を黒板に貼っておく。	B GM プロジェクター 黒板

25	<p>《ボーソーゲーム》</p> <p>○班長を決める。</p> <p>○各班で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害や事故の内容について理解する。</li> </ul> <p>各自で身の守り方を考え、紙に記入する。</p> <p>意見を班内で発表する。</p> <p>○各班で話し合った結果を班長が発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班長が決まらない時は支援する。</li> <li>・自分の意見を発表することや友達の意見を聞くことなどのルールを始めに説明する。</li> <li>・話し合う内容が書かれた巻物を用意する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>① ショッピングセンターで遊んでいる時の予想される災害。</li> <li>② 修学旅行の時に予想される災害</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自で身の守り方を考え、紙に記入する。</li> <li>・始めて教師が模範例を話す。</li> <li>・記入が難しい生徒がいる時は支援する。</li> <li>・どの意見も正しいこと、友達の話を聞くことを確認する。</li> <li>・友達が発表した意見を記入できるように、教師が再度読み、記入できたか確認する。</li> <li>・発表や記入が難しい生徒がいる時は支援する。</li> <li>・各班長が話し合った内容が発表できるように支援する。</li> <li>・それぞれの班の良かったところを称賛する。</li> </ul>	(3) 図録 (8) 卷物 記入用紙 鉛筆 (T1)
10	<p>○まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故や災害時に大切な行動を知る。</li> <li>・あいさつをする。 (Cさん)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故や災害時に大切な行動を説明する。(T1)</li> <li>・本時のまとめをプロジェクターで流す。(T2)</li> <li>・生徒がプロジェクターに注目できるように支援をする。</li> <li>・本時の内容について理解しているか確認する。</li> <li>・大きな声で号令をかけるように確認する。</li> </ul>	

(3) 配置図 (※ボーソーゲーム時)



(4) 生徒の様子、本時の目標、手立て (2年生)

氏名 学年 性別	児童・生徒の様子	本時の目標 (自立活動 の内容)	手立て
Aさん 2年 男	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練では、地震速報が流れると自分から机の下に潜ることができ。避難の順序は自分で考えて判断することは難しいが、事前に確認することで理解して行うことができる。</li> <li>学級では、自分で考えて意見を発表することは難しいが、紙に項目立てておくことで意見を記入して発表することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時にどうするか考えて、発表することができる。 (コミュニケーション)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時の写真や絵を用意する。</li> <li>災害時の対応についてまとめるができるように、項目立てした紙を用意する。</li> </ul>

Bさん 2年 男	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練では、自分から机の下に潜ったり、防災頭巾をかぶったりすることができた。避難指示は言葉の指示だけで理解して行動することができる。立ち止まつたり迷つたりする友達に声をかけて一緒に避難することができる。</li> <li>・悩んだり、不安だつたりすることは伝えることが難しいことがあるが、言葉をかけることで発表することができるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自信をもって、自分の意見を友達に発表することができる。 (コミュニケーション)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの意見も正しい意見であり、自信をもって発表することを確認する。</li> <li>・発表できた時は称賛する。</li> </ul>
Cさん 2年 男	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練では、自分で判断して避難することができる。</li> <li>・学級の様子では、自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりすることができる。報告や連絡を忘れることが多いが、言葉をかけると場に応じた言葉遣いで行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の行動についての自分の意見を発表することができる。 (コミュニケーション)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の写真や絵を用意する。</li> <li>・どの意見も正しい意見であること、自信をもって発表することを確認する。</li> <li>・発表できた時は称賛する。</li> </ul>
Dさん 2年 男	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練の順序や避難場所は理解していて、言葉かけで行動することができる。</li> <li>・新しい活動や状況を想像して行動することは難しいが、言葉をかけることで行動することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の必要な行動を理解することができる。 (環境の把握)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時に重要な行動を友達から聞くようにしたり、教師が説明したりする。</li> </ul>
Eさん 2年 女	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練では、言葉の指示だけで行動することができる。迷つたり立ち止まつたりする友達に声をかけて一緒に避難する姿が見られる。</li> <li>・新しい活動や不安な活動は自分で判断して行動することが難しいが、教師に質問したり確認したりすることができます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時にどうするか考えて、発表することができる。 (コミュニケーション)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の写真や絵を用意する。</li> <li>・どの意見も正しい意見であること、自信をもって発表することを確認する。</li> </ul>
Fさん 2年 男	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練では、言葉をかけることで防災頭巾をかぶったり、避難場所に避難したりすることができる。</li> <li>・新しい活動や状況を想像して行動することは難しいが、言葉をかけることで行動することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りにどのような災害があるのか知ることができる。 (環境の把握)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の写真や絵を用意する。</li> <li>・災害の種類について説明する。</li> </ul>

### (5) 評価

- ・いろいろな災害について知ることができたか。
- ・災害にあった身の守り方について、自分の意見を班内の友達に発表することができたか。
- ・友達や教師の話を聞いて理解することができたか。

# 「災害時の備え」 ヘルプカードって？

平成24年3月に「九十九里版 津波避難に関するガイドライン」が示され、各市町村で津波避難計画等を策定する際に活用されます。その中に示されたヘルプカードの利用方法について説明します。

## 1. 「ヘルプカード」とは

各市町村や障害者団体等において、災害時や日常生活の中で困ったときに、適切な対応を周りの人間に知っていただくために作成されているものです。「ヘルプカード」の他に、「助けてカード」「SOSブック」「SOSファイル」などの名称で作成されています。

災害の面からだけでなく、適切な医療を受けるために、受診サポート手帳や緊急時情報カード（千葉県健康福祉部健康福祉政策課）等も作成されています。

カードは、災害から24時間以内に必要となる情報、ブックは、避難所等で落ち着いて過ごすために必要な情報、ファイルは、避難が長期間に及んだ場合や、保護者がなくなってしまった場合に必要となる成育歴等の情報のために作成しておくとよいと思います。

コミュニケーションが苦手な人のために、絵や図を使ったコミュニケーションブックやボードが、避難所となる場所に常設されるケースが増えています。避難所になる場所に、そのような備えがあるか確認をしておくことも災害の備えにつながると思います。

「各市町村で発行される母子健康手帳」「身体障害者手帳や療育手帳」「山武地区相談支援ファイルあおぞら」等に、必要な情報として一緒に入れておくことも検討されるとよいと思います。

## 2. 作成にあたっての注意

- (1) 個人情報が記載されるので、項目は必要最小限にする。
- (2) 名刺サイズにしたり、折りたためるようにして、所持しやすいようにする。
- (3) 携帯の方法は、個人の特性に応じて、名札ケースに入れて首にかける、ポケットに入れる、かばんや財布に入れるなどの検討をし、もしもの時には、確実に提示できるようにする。
- (4) 必要に応じて、与薬欄を広げたり家族の連絡先を追記したりすることも検討する。

## 3. 個人情報の取扱い

- (1) ヘルプカードの趣旨と個人情報流出のおそれ（紛失時等）について理解を得ながら、要援護者本人、その家族と支援者で作成する（全ての項目を記入しなくてもよい）。
- (2) 紛失した場合に備え、連絡先をどこにするかを検討し、カードに記入しておく。

注) 災害時要援護者とは、大地震などの災害が起きた時に、自力で避難することが難しく支援を必要とする方のことです。市町村によって、名簿登録の仕方や対応は異なり、準備中のところもあります。登録をすることで、避難計画が作成されたり、警察・消防、民生・児童委員、地区・自主防災組織などに情報が提供されたりします。

## 参考)

「千葉県（山武地域振興事務所）」のHPからヘルプカードがダウンロードできます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kc-sanbu/press/2012/tsunami-guideline.html>

「千葉県自閉症協会」のHPから防災ハンドブックや助けてカードがダウンロードできます。

<http://www.interq.or.jp/japan/aschiba/>

「千葉県（健康福祉部障害福祉課）」のHPから受診サポート手帳の記入例がダウンロードできます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/shoufuku/service/iryou-2/index.html>

「福岡市立中央特別支援学校」のHPからSOSファイルがダウンロードできます。

<http://www.fuku-ed.jp/schoolhp/ygchuo/>

「宮城県の学校防災 防災主任の学習室」のHPから緊急時サポートブックがダウンロードできます。

<http://hircy.kir.jp/bcsai/drawer/em-spbook.html>

## ヘルプカード（記入例）

顔写真	<b>ヘルプカード</b>	
	(私には裏面のような支援が必要です)	
氏名	山武 太郎	
生年月日	年 月 日	
住所	千葉県△△市 緊急連絡先	
所属(利用施設)	○○○○学校	旦
医療機関(主治医)	□□□□□病院(☆☆先生)	
旦	血液型 O型 RH(-)	
障害・疾病等	身体( 視覚 )、知的、精神、発達、 高次脳、認知症、寝たきり高齢者、難病( )、 その他( )	
私は必要な支援		
<input type="radio"/>		
<input type="radio"/>		
<input type="radio"/>		
※障害・疾病等の特性や具体的な支援内容について記入 与薬の種類		
''を1日( )回/1回( )錠・包・mg/食前・後		
''を1日( )回/1回( )錠・包・mg/食前・後		
''を1日( )回/1回( )錠・包・mg/食前・後		
アレルギー そば 既往症 合併症など		
愛身の姿勢では自分の命は守りきれません。 自発的に身を守る方法として携帯してください。		

《表面》

《裏面》

### (裏面「私は必要な支援」の記入例)

※障害・疾病等の特性や、具体的な支援内容について記入する。

- 障害があり、会話を理解したり話を正しく伝えたりすることが苦手です。  
指示や予定を文字や表にすると、よくわかります。
- てんかん発作があり、発作が起きたときには体を横にして、けいれん発作が5分以上続いたら医療機関に搬送してください。
- ☆☆を持っていると落ち着きます。普段は△△と呼ばれています。
- 認知症があり、必要量以上に食べることがあります。

### 記入にあたって

全てを記入する必要はありません。必要な情報を選択して記入してください。このヘルプカードは、Wordで作成されており、一人一人に合わせたものに作り替えることもできます(与薬の種類が多い等)。作成について不明な点は、ご遠慮なくご相談ください。

所持の方法についても、一人一人に合ったものにしていく必要があると思います。

顔写真	<b>ヘルプカード</b>	
	(私には裏面のような支援が必要です)	
氏名		
生年月日	年 月 日	
住所	緊急連絡先	
所属(利用施設)	○○○○学校	旦
医療機関(主治医)		
旦	血液型	
障害・疾病等	身体( )、知的、精神、発達、 高次脳、認知症、寝たきり高齢者、難病( )、 その他( )	
私は必要な支援		
<input type="radio"/>		
<input type="radio"/>		
<input type="radio"/>		
※障害・疾病等の特性や具体的な支援内容について記入 与薬の種類		
''を1日( )回/1回( )錠・包・mg/食前・後		
''を1日( )回/1回( )錠・包・mg/食前・後		
''を1日( )回/1回( )錠・包・mg/食前・後		
アレルギー 既往症		
愛身の姿勢では自分の命は守りきれません。 自発的に身を守る方法として携帯してください。		

顔写真

## ヘルプカード

(私には裏面のような支援が必要です)

氏名

生年月日 年 月 日

住所	緊急連絡先	— —
所属(利用施設)	在	— —
医療機関(主治医)	在	— —
血液型		
障害・疾病等	身体( )、知的、精神、発達、 高次脳、認知症、寝たきり高齢者、難病( )、 その他( )	

私に必要な支援

- 
- 
- 

\*障害・疾病等の特性や具体的な支援内容について記入

与薬の種類

- ''を1日( )回/1回( )錠・包・mg/食前・後
- ''を1日( )回/1回( )錠・包・mg/食前・後
- ''を1日( )回/1回( )錠・包・mg/食前・後

アレルギー

既往症

愛身の姿勢では自分の命は守りません。  
自発的に身を守る方法として携帯してください。

顔写真

## ヘルプカード

(私には裏面のような支援が必要です)

氏名

生年月日 年 月 日

住所	緊急連絡先	— —
所属(利用施設)	在	— —
医療機関(主治医)	在	— —
血液型		
障害・疾病等	身体( )、知的、精神、発達、 高次脳、認知症、寝たきり高齢者、難病( )、 その他( )	

私に必要な支援

- 
- 
- 

\*障害・疾病等の特性や具体的な支援内容について記入

与薬の種類

- ''を1日( )回/1回( )錠・包・mg/食前・後
- ''を1日( )回/1回( )錠・包・mg/食前・後
- ''を1日( )回/1回( )錠・包・mg/食前・後

アレルギー

既往症

愛身の姿勢では自分の命は守りません。  
自発的に身を守る方法として携帯してください。

顔写真

## ヘルプカード

(私には裏面のような支援が必要です)

氏名

生年月日 年 月 日

住所	緊急連絡先	— —
所属(利用施設)	在	— —
医療機関(主治医)	在	— —
血液型		
障害・疾病等	身体( )、知的、精神、発達、 高次脳、認知症、寝たきり高齢者、難病( )、 その他( )	

私に必要な支援

- 
- 
- 

\*障害・疾病等の特性や具体的な支援内容について記入

与薬の種類

- ''を1日( )回/1回( )錠・包・mg/食前・後
- ''を1日( )回/1回( )錠・包・mg/食前・後
- ''を1日( )回/1回( )錠・包・mg/食前・後

アレルギー

既往症

愛身の姿勢では自分の命は守りません。  
自発的に身を守る方法として携帯してください。

顔写真

## ヘルプカード

(私には裏面のような支援が必要です)

氏名

生年月日 年 月 日

住所	緊急連絡先	— —
所属(利用施設)	在	— —
医療機関(主治医)	在	— —
血液型		
障害・疾病等	身体( )、知的、精神、発達、 高次脳、認知症、寝たきり高齢者、難病( )、 その他( )	

私に必要な支援

- 
- 
- 

\*障害・疾病等の特性や具体的な支援内容について記入

与薬の種類

- ''を1日( )回/1回( )錠・包・mg/食前・後
- ''を1日( )回/1回( )錠・包・mg/食前・後
- ''を1日( )回/1回( )錠・包・mg/食前・後

アレルギー

既往症

愛身の姿勢では自分の命は守りません。  
自発的に身を守る方法として携帯してください。

顔写真

## ヘルプカード

(私には裏面のような支援が必要です)

氏名

生年月日 年 月 日

住所	緊急連絡先	— —
所属(利用施設)	在	— —
医療機関(主治医)	在	— —
血液型		
障害・疾病等	身体( )、知的、精神、発達、 高次脳、認知症、寝たきり高齢者、難病( )、 その他( )	

私に必要な支援

- 
- 
- 

\*障害・疾病等の特性や具体的な支援内容について記入

与薬の種類

- ''を1日( )回/1回( )錠・包・mg/食前・後
- ''を1日( )回/1回( )錠・包・mg/食前・後
- ''を1日( )回/1回( )錠・包・mg/食前・後

アレルギー

既往症

愛身の姿勢では自分の命は守りません。  
自発的に身を守る方法として携帯してください。

# 千葉県立東金特別支援学校 防災教育 頭を守ること実態調査

小 中 高 年 組

内容：火災想定の避難訓練において、防災頭巾をかぶるにあたってどうであったか

※明確でないものについては予想でカウントをしてください

※重複するものがあった場合には、より優位な方に一つだけカウントしてください

内 容	人 数
放送（警報）を聞いて、自分でかぶった	
教師の言葉の指示でかぶった	
教師の身振りと言葉の指示でかぶった	
友達がかぶるのを見てかぶった	
教師がかぶるのを見てかぶった	
教師が示したカードや写真を見てかぶった	
教諭がかぶせた（そのままかぶれた）	
教諭がかぶせた（嫌がったので押さえながら避難）	
パニック等を起こし、かぶせることができなかつた	

※項目にないものがあれば、空欄に具体的に書いてください。

※瀧川まで提出をお願いします（忘れないうちに早めに）。

# 防災教育 頭を守ること実態調査 ②回目

小 中 高 年 組

内容：地震津波想定の避難訓練において

- I. 防災頭巾をかぶるにあたってどうであったか
- II. 机の下にもぐる等、避難行動の対応ができたか

※明確でないもの（欠席も含）については予想でカウントをしてください

※重複するものがあった場合には、より優位な方に一つだけカウントしてください

## I. 防災頭巾

内 容	人 数
放送（警報）を聞いて、自分でかぶった	
教師の言葉の指示でかぶった	
教師の身振りと言葉の指示でかぶった	
教師や友達がかぶるのを見てかぶった	
教師が示したカードや写真を見てかぶった	
教師が渡すとかぶった	
教師がかぶせた（そのままかぶれた）	
教師がかぶせた（嫌がるが押さえながら避難）	
パニック等を起こし、かぶせることができなかつた	

## II. 避難行動

内 容	人 数
自分で 机の下にもぐり、防災頭巾もかぶった	
支援で (言葉 身振り 真似て カードで 等) 机の下にもぐり 防災頭巾をかぶった	
教師が移動しての支援が必要だった① 手を引いて	
教師が移動しての支援が必要だった② 抱きかかえて	
教師が移動しての支援が必要だった③ 机の下に入れないため（車椅子 こだわり 等）その場で 防災頭巾やヘルメットをかぶせた ※防災頭巾やヘルメット以外で頭部を守ったものがあれば 教えてください ( )	

◎その他、気付いたことや困ったこと、改善したこと等があれば教えてください。

※小学部の車椅子の生徒はヘルメットを常に車椅子に取りつけている。

※瀧川まで提出をお願いします（本日中に）。

平成24年 6月 吉日

宮城県立石巻支援学校

学校訪問担当者 様

千葉県立東金特別支援学校

教諭 瀧川 猛

### 学校訪問の質問について

梅雨の候、貴職におかれましては、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、別紙のとおり、学校訪問時の質問について、生徒会生徒が考えました。回答について御検討いただけけるようお願い申し上げます。質問の内容については、全てお答えいただかなくても構いません。

生徒たちは、今までの防災教育の取り組みから感じたことや思ったことから質問を考えました。高等部生徒会役員の生徒ということもあり、就労できる可能性がある生徒たちで、日常会話は成立します。彼らから「車椅子の避難について聞きたい」という内容が出た時には、嬉しく思いました。生徒の目線で見聞きをして、感じたことを大切にしたいと思っています。御協力を願い致します。

#### 1 日 時

平成24年7月19日（木）10：00～11：00

#### 3 訪問者

高等部職員1名、高等部生徒（3学年）男子2名 合計3名

#### 4 訪問日程

1日目 7/17 (火)	5：06 東金駅⇒6：56 東京駅⇒9：40 盛岡駅⇒11：55 宮古駅 ⇒13：00～14：00 岩手県立宮古恵風支援学校 ⇒支援学校発 田老漁港経由で宮古駅へ⇒15：00 宮古駅発 ⇒17：22 盛岡駅⇒18：09 花巻駅⇒18：30 花巻泊（ホテル紅葉館）
2日目 7/18 (水)	6：49 花巻発⇒8：47 小佐野着 ⇒9：30～11：00 岩手県立釜石祥雲支援学校 ⇒13：00～14：00 釜石市立釜石東中学校 ⇒15：55 釜石発⇒18：01 花巻着 ⇒18：30～19：15 岩手県立花巻清風支援学校（寄宿舎）⇒19：50 花巻泊
3日目 7/19 (木)	7：25 新花巻⇒8：21 古川⇒8：39 小牛田⇒9：20 石巻駅 ⇒10：00 宮城県立石巻支援学校 ⇒昼食後沿岸部へ⇒14：12 石巻駅⇒14：52 小牛田駅 ⇒15：46 仙台駅⇒17：56 東京駅⇒19：22 東金駅

#### 5 その他 担当者 高等部主事 瀧川 猛

携帯 090-7838-0057

学校TEL 0475-52-2542 FAX 0475-55-4448

[togane-sh@chiba-c.ed.jp](mailto:togane-sh@chiba-c.ed.jp)

# 学校訪問質問事項

高等部生徒会長の伊藤君、生徒会役員の安井君からです

( ) や \_\_\_\_\_ は瀧川が加えました。

## 震災から今まで

- ・大地震の後、どのような対応をとりましたか？
- ・車椅子の人たち（中学校は特別支援学級の生徒）は、どのように避難しましたか？
- ・どのような学校行事がありますか？できなくなってしまった行事はありますか？
- ・（今も続いている、困っていることは何ですか？）

## 備え

- ・学校の防災対策（耐震や津波）はどうなっていますか？
- ・生徒たちが持ち歩いている防災グッズはありますか？（学校に新たに備えたものは？）
- ・（震災後に避難訓練のやり方や内容で変えたことはありますか？）

## 復興に向けて

- ・今から、うちの学校で協力できることはありますか？
- ・今、足りないものや必要な物は何ですか？

## 交流

- ・復興に向けて、どのような取り組みをしていますか？（個人や家庭では？学校では？）
- ・作業学習（生活単元学習など）で製品を作っていますか？どんな製品を作っていますか？
- ・作業製品を送っていただき「やまもも祭（学校祭）」で販売することはできますか？  
(着払い受け取り、売り上げは送金します)

## 寄宿舎（夜間）

- ・夜間の防災訓練は行っていますか？
- ・寝ている時（休日や夜間）の備えは、どのようにしていますか？

## 東金地域 防災教育ネットワーク会議設置要項（案）

### （目的）

第1条 東金地域の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校及び地域の関係機関の防災担当者が集まって情報交換を行い、地域における防災教育のレベルアップを図る。

### （組織）

第2条 東金地域防災教育ネットワーク会議（以下ネットワーク会議という）は、次に掲げる職にある者を委員として構成する。

- (1) 東金市内の小学校、中学校の防災担当者
- (2) 東金市内の高等学校の防災担当者
- (3) 東金市内の特別支援学校の防災担当者

- 2 このほかに、ネットワーク会議のアドバイザーとして、教育委員会や福祉、消防等の関係者の出席を依頼する。
- 3 委員の任期は1年とする。

### （運営・会議）

第3条 ネットワーク会議に会長、副会長を置く。

- 1 会長は委員が互選し、副会長は会長が任命する。
- 2 会長はネットワーク会議を総理し、副会長は会長に事故があるとき、または会長が欠けたとき、その職務を代行する。

### （会議開催）

第4条 ネットワーク会議は必要に応じて、ネットワーク会議の会長が招集する。

### （協議事項）

第5条 ネットワーク会議は、東金市内にある各学校の防災担当者が、それぞれの取組について情報交換するとともに、互いの連携を深めるため、次の各号に掲げる事項について協議する。

- (1) 各学校における防災教育の現状や課題について
- (2) 防災教育の先進的な取組について
- (3) 自然災害等、非常時における各学校間や関係機関との連携、協力について
- (4) その他、会長が必要と認める事項について

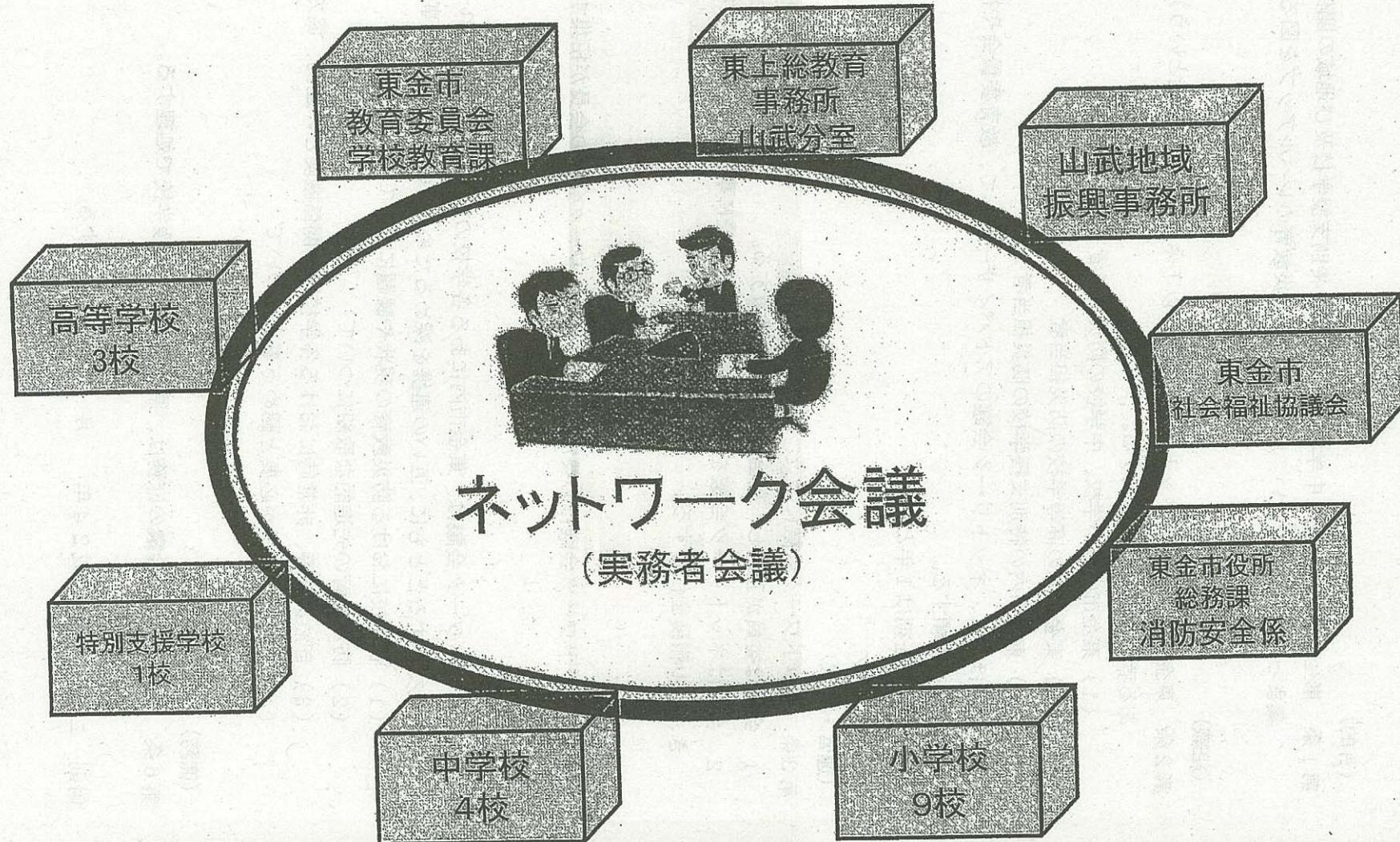
### （庶務）

第6条 ネットワーク会議の庶務は、県立東金特別支援学校で処理する。

附則 この要項は、平成24年 月 日から施行する。

# 東金地域 防災教育ネットワーク

東金地域の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校及び地域の関係機関の防災担当者が集まつて情報交換を行い、地域における防災教育のレベルアップを図る。



年度から授業で活用してもらおう。  
高学年用の「今、できること」  
(約10分)は、希望の校内活動が  
できずによる気をなくした男子児  
童が主人公。富津市のマザーパーク  
場が主人公。富津市のマザーパーク

県教委、小



で訴える力が強い。授業で活用してもらい、おおらかで頼もしい人  
に育つてほしい」としている。  
県教委は中学、高校向けのDV  
教材も10年度に作成している。

# 学校向け震災マニュアル

## 県教委 教職員の適切対応 詳細に 障害児パニック拡大防止

県教委は東日本大震災の経験をふまえ、揺れの大きな地震が発生した際の対処法を盛り込んだ「学校における地震防災マニュアル」を作成した。授業中や下校途中など、状況に照らした教職員の対応や、障害を持つ児童生徒への対応なども細かに記していくのが特徴。県内全ての小中学校、高校に配布した。

防災マニュアルは「揺れ」「発生時の安全確保」「保護者との連絡体制確立」など重点6項目が柱。  
教職員がすべき児童生徒への指示や対応を「授業中」「下校途中」「在宅中」など状況別に記し、さらに揺れの

参考にし、児童生徒には「揺れや津波に対し、率先して避難すること」と明記。「年上の子は年下の子を励ましてながら避難する」と防災意識の向上を促している。

また、視覚障害や肢体不自由など、障害を抱える児童生徒についても、音声を聞き取れなかつたりパニックを起こしたりするなど想定される事態への対応を症状別に細かく記している。

県教委学校安全保健課は

実情に応じた防災計画を作り、繰り返し訓練をしてほしい」としている。マニュアルは県教委ホームページからダウンロードできる。

### 特別支援学校にも広がる防災教育

今回のマニュアル作成以前から防災教育に力を入れている学校もある。

東金特別支援学校(東金市)では、揺れ発生時にはかがみこんで頭部を守ることを徹底して教えている。昨年10月に地域の老人会とともに実施した防災訓練では、緊急地震速報が流れた際に、ある生徒が「僕はここにもぐるから、おばあちゃんはここにもぐって」と落ち着いて行動し、参加者を感じさせたという。

同校の薄井久雄校長は、「普段からいろんなことを想定して判断力をつけさせるのが大切」と話す。

サツマイモのおいしさをP  
Rしたい」としている。

締め切りは26日(消印有効)。書類審査の結果は9月

日本代表は7月13日～22日  
に開かれた世界選手権で

志野育ちの選手として、活  
躍を祈っています」とたた

宮本市長(左)から花  
束を贈られる関選手

間で紹介したが  
答を行なう。最

言葉

2012年(平成24年)8月25日(土曜日)

言葉

# 地域防災の中核担う



## 東金特別支援学校

知的障害のある児童・生徒が通う県立東金特別支援学校(東金市北之幸谷)が、東日本大震災を契機に、地域防災の中核的な役割を担い始めている。同校の学区は震災で津波被害を受けた九十九里町など2市4町。「一人ひとりの命を守るために、地域とともに防災対策を考えよう」と防災の啓発に力を入れ始めた。地域と合同で避難訓練を実施するなどワーク作りも進めている。

(大森祐香)

被災学校を訪問  
22日に同校で行われた防災教育講演会。学校関係者95人のほか、地域住民も78人が参加し、防災の専門家

による講演を聞き、地域の防災のあり方を学んだ。

講演に先駆け、2人の男子生徒が写真を交えて震災の感想や課題を語った。演壇に登ったのは、ともに3年生で軽度の知的障害がある生徒会長の伊藤雄太君(18)と生徒会役員の安井拓人君(18)。2人は電車や自転車で通学しているが、同校には障害が重くスクールバスで通学したり、車いすで生活したりしている児童・生徒もいる。津波で自宅が浸水した在校生もいたといふ。

「どうしたら車いすなどの友達もみんな安全に逃げられるか知りたい」と、震災後は岩手県や宮城県、旭市の被災学校を訪問。見聞きした情報を基に、生徒会が中心となり「自分たちは援護される立場だけど、みんなで助かるために自分たちにもできることがあるはず」と生徒同士で案を出し合った。

指導する滝川猛教諭(45)によると、震災で大きな揺れを経験したことでの児童・生徒の防災意識は高まり、自主的な活動に結び付いていているという。元禄地図の大津波で犠牲になつた人の供養碑などを見て回り、県の防災マップなどを参考にして学校周辺の防災情報を1枚の地図にまとめたり、避難所に活用できるイラスト入りの仕切り板を作成したりするなど、活動は多岐にわたる。

他校とも連携して活動を成し、地域に波及させようと、知識を絞つていて。地域合同での避難訓練を昨年9月に初めて実施。25

日にも開催し、100人以上の住民らが参加する。また、この22日には東金市内の小中学校、高校などと連携して防災について学び。互いの取り組みについて情報交換し、識者を招いて勉強会を開く。今後、そ

うした活動を学区全体の市町に広げていく考えだ。滝川教諭は「特別な学校と思われてしまい、地域から忘れられた存在になつてしまつてはよくない。高齢者や乳幼児など地域にも要援護者はおり、一緒に防災を考えることが大切だ」と思っている。いざという時に頼れる地域の絆を深めていきた

日にも開催し、100人以上の住民らが参加する。

また、この22日には東金市内の小中学校、高校などと連携して防災について学

間で紹介したが  
答を行なう。最

決定する。各組

優勝者に首都圏  
参加無料。差  
所、氏名、年齢、  
常の電話番号、  
レス)、大学、  
表する本の名前  
載して、メール  
@yomiuri.co.jp

込む。集合時間  
切りは10月5日  
問い合わせは  
事務局(03-6

168、平日午後5時)。

た案内状を送付

い」と話している。

「25日」△昼間△夜  
緑区、佐倉市、成田  
夜間△駐車△美浜区  
孫子市

公開取り組

お気に入りの本の魅力を  
発表しあって、一番読みた  
くなくなった本を決める書評合

学生の参加者募集  
10月14日に開催  
おすすめ本紹介

地域側もそうした活動を  
成し、地域に波及させようと、知  
恵を絞つていて。地域合同での避難訓練を  
昨年9月に初めて実施。25

法務省人事(24)  
光章 中村進氏(元  
第三小学校長)千葉  
叙位叙勲(24)  
7月26日死去

地域住民らの前で、被災地訪問の感想  
(22日、東金特別支援学校、  
を語る伊藤君(中央)と安井君(右))

ちよ教育

〔第3種郵便物認可〕



## ぼうさい甲子園

# 2特別支援学校受賞

「東金」に奨励賞、「長生」津波賞

学校や地域の優れた

学校（薄井久雄校長）

う。7月に高等部3年

防災教育・活動を顕彰

が奨励賞、県立長生特

の2人が東日本大震災

する「ぼうさい甲子園」

別支援学校（鎌田哲夫

の被災地を訪ね、現地

（1・17防災未来賞）

校長）が「津波ぼうさ

の特別支援学校4校と

毎日新聞社など主催

校長）が「津波ぼうさ

交流した。「地震が来

IIの今年度受賞校が11

東金特別支援学校は

たら、すぐ逃げること

日、決まった。県内か

知的障害のある児童生

を広めて」。現地の学

らは県立東金特別支援

徒らが6市町から通

校の思いや惨状を見聞

きした2人は「地域に東北で学んだ防災知識伝えたい」との思いを強くし、8月に校内で開かれた防災教育講演会で、住民ら約200人の前で被災地で学んだことを発表した。

繰り返し防災訓練を実施し、避難所で使う絵入りの間仕切りなどを作った。現在、お笑い芸人COWCOWの「あたりまえ体操」に

を盛り込んだ替え歌を許諾を得て作り、自分たちで考えた振り付けを練習している。写真・同校提供。

長生特別支援学校は海岸から約400㍍、海拔約5㍍にある。震災後、徒步とスクールバスの2通りの避難方法を決めた。今年度は1学期にそれぞれの方

法で避難訓練を実施。

2学期は抜き打ちで緊急地震速報音を鳴らして訓練を繰り返した。

中学部2年では、非常用ナップサックを作

り、教室に常備した。

【吉田卓矢】

# いのちと地域を守る

毎月11日掲載

## あたりまえ体操防災バージョン



①

あたりまえ～

あたりまえ～

あたりまえ～

防災

地震の時ま～

ダンコムシ～

タ

ン

コ

ム

シ

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

## 子どもの防災意識画うユニーブ教育



輪口 横田さん

（写真）

（左）

（右）

（上）

（下）

（左）

## 題名：防災発信・防災交流～北之幸谷から二市四町へ～

千葉県立東金特別支援学校 教諭 瀧川 猛

### 1 学校の規模及び地域環境

本校は九十九里平野にあり、所在地である東金市は、古くから農水産物の集散地として栄え、温暖な気候風土に恵まれたところである。知的障害を中心に、自閉症、肢体不自由、聴覚障害など、他の障害を併せ持つ児童生徒の多様な教育的ニーズに応じた教育を行っており、児童生徒数 160 名、平成 24 年度に 40 周年を迎えた。また、知的障害特別支援学校では県内唯一の寄宿舎設置校である。より地域とのつながりを深めるために、平成 23 年度から、家庭・地域・学校のパートナーシップにより、地域と一体となった防災力の向上を目指して防災教育に取り組んでいる。

### 2 取組のポイント

- (1) 日々の授業を通して、障害のある児童生徒に対する防災教育のポイントを探ったり、障害に応じた防災用具の開発に取り組んだりする。
- (2) 地域の自治会や老人会等と特別支援学校との夜間を含めた合同防災訓練や防災安全マップの作成等を行うことで、地域と一体となって防災に対する意識を高める。
- (3) 学区である山武郡市（東金市、山武市、大網白里町、九十九里町、横芝光町、芝山町）をユニバーサルの視点でつなぎ、防災について得た情報を発信し共有していく。

### 3 取組の概要

#### (1) 平成 23 年度

実施時期	計画事項	参加者
4月	防災計画（避難訓練、防災教育など）	4(1)に記載
5月	担当者連絡会議① 年間でパーテーション作成	高等部 美術
7月	担当者連絡会議②	4(1)に記載
8月	防災シンポジウム (東金文化会館) 防災安全マップ作成	県外を 含めた 関心者
9月	合同防災訓練 I (夜間)	地域
10月	公開授業 (高等部選択美術、自主通学生集会) 担当者連絡会議③ 合同防災訓練 II (集会)	県内教育 関係者 4(1)に記載 長寿会
1月	合同防災訓練 III (引き渡し、放水訓練等)	消防団 子供会
2月	担当者連絡会議④	4(1)に記載

#### (2) 平成 24 年度

実施時期	計画事項	参加者
4月	安全教育確認研修	全職員
5月	頭を守ること実態調査	児童生徒・職員
6月	引き渡し訓練	保護者
7月	東北学校訪問	高生徒会 2 名
8月	防災教育講演会 防災をテーマとした地域との交流 I 東金地域防災教育ネット	PTA・地域・ 関係機関 4(2)に記載

	トワーク会議① 旭市飯岡訪問	児童生徒会
9月	防災をテーマとした地域との交流Ⅱ（夜間）	地域・城西 国際大学
10月	防災をテーマとした地域との交流Ⅲ（集会） 災害時要援護者の避難を考える講演会	長寿会 4(2)に記載
12月	防災をテーマとした地域との交流Ⅳ（旭市飯岡仮設住宅の方々との交流）	長寿会 高等部 3年
1月	東金地域防災教育ネットワーク会議②	4(2)に記載

東金市社会福祉協議会
東金市内中学校 4校
東金市内小学校 9校
東金市内高等学校 公立2校 私立1校
千葉県立東金特別支援学校
災害時要援護者支援ネットワーク会議（5回）
所 属
山武圏域地域自立支援協議会
山武健康福祉センター（保健所）
城西国際大学福祉総合学部
千葉県立東金特別支援学校

#### 4 連絡会議

##### (1) 平成 23 年度（4回実施）

###### 担当者連絡会議

所 属
千葉県教育庁教育振興部学校安全保健課
東金市総務部総務課消防安全係
東金市教育委員会教育部学校教育課
東金市社会福祉協議会会长
東金市北之幸谷区区長
東金市北之幸谷区区長代理
東金市消防団団長
嶺南地区社会福祉協議会会长
北之幸谷区ボランティア部会会长
千葉県立東金特別支援学校 PTA 会長
千葉県立東金特別支援学校 職員 6 名

##### (2) 平成 24 年度

###### 東金地域防災教育ネットワーク会議（2回）

所 属
千葉県山武地域振興事務所
千葉県教育庁東上総教育事務所山武分室
東金市総務部総務課消防安全係
東金市教育委員会教育部学校教育課

#### 5 具体的な取組

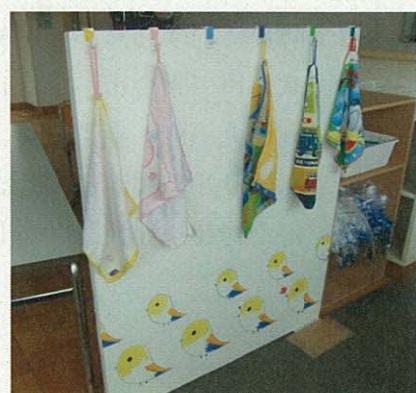
##### (1)授業を通して

- ・国語、算数や保健体育（防災マルチパーティションの活用 普段の授業で有事に転用できるように）

###### 【防災マルチパーティション】



【裏面はタオル掛けに】



- ・高等部作業学習（防災リュックや節電対策製品の販売 防災ガールとして展示）

【防災リュック】



【ひえひえストール】

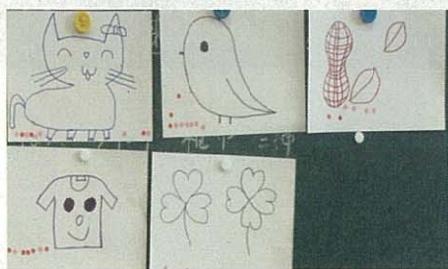


【防災ガール】



- ・高等部選択美術（防災マルチパーティション・防災ピクトグラムの作成 避難所で使うイメージ）

【下絵】



【アンケートで選ぶ】

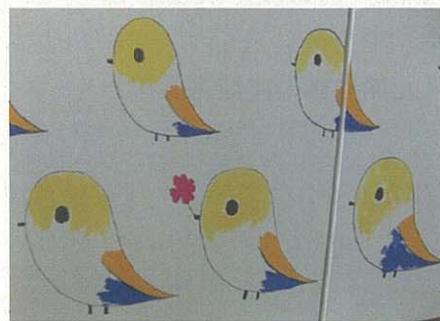
防災パーテーション アンケート

何番の絵が防災パーテーションに  
適していると思いますか。

3つ連びシールを貼ってください

安心する・明かるい  
おちつく・やさしい  
おだやか・すき

【Pちゃん】



【学校祭で小学部が活用】



- ・中、高家庭科（缶詰や保存食等を活用して調理実習 災害時に調理ができるよう）
- ・小、中生活単元学習（災害に備えよう～自分の身を守るためにできること～ 防災キャンドル）

【防災リュック作り】



- ・特別活動（自主通学生徒集会 災害時のコミュニケーション クロスロードやロールプレイングで）
- ・高等部音楽（合唱：しあわせ運べるように）
- 高等部総合的な学習の時間（防災劇 東北パフェ）

**(2)児童生徒会活動を通して**

- ・防災安全マップの作成（津波供養碑の見学、警察署と長寿会訪問 安全・災害情報をまとめる）

**【元禄地震の津波供養碑】**



**【北之幸谷防災安全マップ】**



- ・PTAと協力してシンポジウムでの義援金集め
- ・被災地への支援で未使用のタオル集め

**【東金市社会福祉協議会へ】**



- ・地域のボランティア部会との炊き出し（地震がきた時に経験が生かされるように）

**【カレーライス作り】**



- ・全校集会：防災集会として地域の長寿会を招待（お互いの感想から また一緒に活動をしたい）

**【一緒に机の下へ】**



- ・被災地訪問①旭市飯岡地区に小学部、高等部（仮設住宅で交流、飯岡中学校を訪問）  
【飯岡刑部岬から見た飯岡漁港】



- ・被災地訪問②宮城県石巻市 岩手県宮古市・釜石市・花巻市（講演会での報告）  
【今も残る たくさんのがれき】



- ・防災教育チャレンジプラン報告会で児童生徒自身が発表（小学部・中学部・高等部）



### (3)防災をテーマとした地域との交流行事を通して

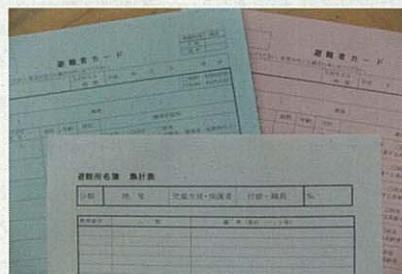
- ・防災シンポジウム（群馬大学 片田敏孝氏 大網白里町郷土史研究会 古山 豊氏：東金文化会館）防災教育講演会（危機管理教育研究所 国崎信江氏 東京大学地震研究所 大木聖子氏）

- ・寄宿舎における夜間の合同防災訓練（寄宿舎の自治組織であるつばさ会が主催 暗闇訓練 地域のボランティア部会と城西国際大学スターダストキッズ手話チームが参加）



- ・PTA行事として、地域（消防団、子ども会）、合同防災訓練（避難所開設や炊き出し訓練）

### 【避難者カードで受付】



### 【保護者と地域で協力】



### 【テント張り テーブル探し】



### 【操法訓練の様子を見学】



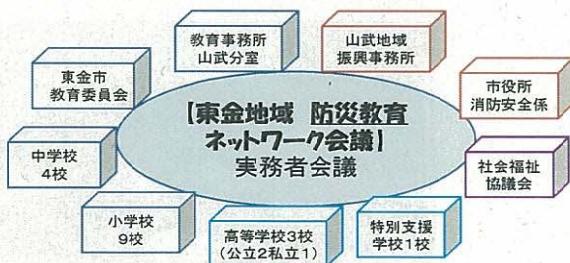
- ・北之幸谷区長寿会と旭市仮設住宅シスターズ&ボーイズと高等部との交流（北之幸谷区公民館）  
シスターズ&ボーイズは軍手人形劇「仮設住宅の暮らし」を発表

#### (3) ネットワーク会議を通して



- 「防災ユニバーサルねっと」の構築に向けて
- ・東金地域防災教育ネットワーク会議（小・中・高・特別支援学校及び行政、福祉等の関係機関）

#### 「防災ユニバーサルねっと」の教育分野の地盤固め



各関係機関の防災担当者が集まり情報交換  
地域の防災教育のレベルアップを図る

- ・災害時要援護者ネットワーク会議

「災害時要援護者の避難を考える講演会  
とグループワークを実施」

26団体 57名参加

幼稚園 大学（福祉） 特別支援学校

市役所（総務課 福祉課）

広域行政 広域の保健所

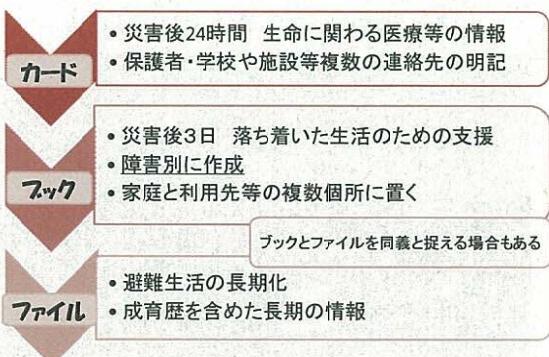
社会福祉協議会

各障害者団体（自閉症 身体障害者  
精神障害者など） 親の会

視覚障害者本人 など

【ヘルプカードの推進に向けて】

#### ヘルプカード等 時系列 優先順位



#### ○認知症の人と家族の会の方の感想

「障害者の家族会の方とお話しする中で、分野や介護の内容は違うけれども、考える視点や悩みはとても似ている。他の分野の方と話せることで発見ができた。ありがとうございました。」「何かを決める。何かを作るという明確な形でなく、話をするテーブルを作れたことが大きな収穫ですね。」



## 6 成果と今後の課題

### (1) 成果

大切な「いのち」を守るために、教師の安全教育確認研修を生徒が登校する前の4月3日に行った。



火災、津波想定の避難訓練後に頭を守ることの実態調査を行い、実践を振り返る中で、防災頭巾ではなくヘルメットの方が有効であることが指摘され、車椅子にはヘルメットが備え付けられるようになった。防災の専門家の意見からもヘルメットの有効性は指摘されているが、実践の反省から職員の主体的な取り組みとしてヘルメットを備えることになったことは、防災教育の大きな成果である。

東日本大震災発生時、児童生徒は下校途中であった。通学途中の災害時の避難場所、土日や長期休業中に災害が起こった時の安否確認方法について、災害時情報カードの作成を保護者に依頼した。家庭における防災教育のきっかけになった。また、自主通学の生徒を対象に、災害時のコミュニケーションをテーマにして、自主通学生徒集会を継続して行っている。学年縦割りで通学方法別に小グループに分かれ、対応について考える。「大津波警報が出た！どこに逃げる？」という質問に、多くのグループは「3階に避難する」と答えたが、あるグループは、「遠くに見える陸橋の上に逃げようと思った」と答えた。グ

ループで話し合いをする際に、自分の意見をもつこと、他者の意見を聞くこと、それから最善を見つけ判断して行動することを確認している。「電車が遅れています」「○○君が、おなかが痛いと言ってトイレに行きました。どうしたらよいですか？」学校や教師に連絡する習慣がついてきた。

児童生徒会が主催となって行っている全校集会に長寿会を招いて、防災をテーマとした地域との交流を行った。全校集会は毎回、小学部と中学部、中学部と高等部というように姉妹学級を組んで交流をしている。姉妹学級グループに長寿会の方を加え、避難グッズを探しに行く。小学部と高等部が手をつなぎ、長寿会の方と本校の児童生徒が手をつなぐ。緊急地震速報が流れるとき、廊下や階段にいたグループは、その場にしゃがんで頭を守る。高等部の生徒が小学部の生徒の頭を押さえながら自分の頭も守ろうとする姿があった。また、教室にいたグループは机の下にもぐる。中学部の生徒が自分の頭を押さえながら、隣の机の椅子を出して、長寿会の方を招き入れていた。防災をテーマとした地域との交流から、助け合う共助の姿を見ることができた。

高等部生徒会の代表生徒2名と東北の学校を訪問してきた。復興に向けて大変な中、どの学校も快く引き受けさせていただいた。そして、どの学校も明るく元気に活動していて、逆に元気をいたいただいた。岩手県の宮古恵風支援学校では「がんばっぺす！」宮城県の石巻支援学校では「とにかく にげっぺ！」を広めてほしいと話があった。その言葉を二人の生徒たちは、発表の場で必ず紹介している。「今からぼくたちにできることはありますか？」という質問に答えていただいた。「来ていただいたのでうれしい、応援してください

い！」「自分たちの学校のことを思い出して、考えてみてください！（寒い時期はロッカーに長袖を置いておくことなど防災について見直してください）」

旭市の仮設住宅訪問をきっかけに、仮設住宅のシスターズ＆ボーイズが来ることになった。シスターズは軍手人形劇「仮設住宅の暮らし」を発表する。発表の場所は、地域の公民館。そこでは地域の長寿会が踊りの披露をする。踊りの道具は大きく、運び出すことが大変で発表の機会が少なかった。公民館を使うことで、踊りの発表の場を作ることができた。そこに本校の高等部3年生も加わって、歌やダンスの発表と、総合的な学習の時間で取り組んだ防災劇を紹介した。さまざまな思いをつなぐことができた。以下は、旭市の訪問を終えて生徒の感想である。「仮設住宅は、部屋は7畳半で予想よりちょっと広かったけど、冬はすごく寒いし、夏になれば虫や蛙が入ってくる話を聞いて、暮らすのに大変だなと思いました」「飯岡中学校では、校舎の壁に津波の跡があり腰ぐらいあって本当にビックリしました。僕は、これらを見て聞いて本当の地震・津波の怖さや恐ろしさを知りました」

「あいさつ」はキャリア教育の視点からも、道徳の視点からも、日常生活の指導やコミュニケーションの視点からも支援や指導ができる。それに加え、「あいさつ」は不審者対応などの防犯にもつながる。そういう観点で学校教育を見直してみると、防災や安全教育につながるものがある、そこにも、ここにも見つかる。そこに地域の資源や特性を重ねてみると、地域との連携を含めた防災教育が見えてくる。

## (2) 今後の課題

「できたこと」「できていないこと」をアセスメントし直して明確にする。

### ①見直すにあたって

- 優先順位
- 見直す時期・具現化できるまでの時間の目安の設定（いつ・いつまでに）
- 組織体制（だれが）

### ②見直す内容

【地質・地形】海まで8km・海拔8m沼地の埋め立て地であり過去液状化

【地域】所在地の北之幸谷区そして学区の二市四町

【建物・敷地】耐震化・老朽化 寄宿舎  
給食（米の備蓄） 遊具

【児童・生徒】知的障害を中心に自閉症、肢体不自由、聴覚障害など、他の障害を併せ持つ多様な児童生徒

【家庭】災害時情報カードの活用（休日や長期休業）メール配信サービスの加入率

【教職員】非常勤職員数（4月当初に安全確認研修へ）寄宿舎の夜間体制（近隣居住職員の協力確認）

【県・市の施策】ネットワーク会議 防災セルフチェックの具体的な活用方法（PDCA）

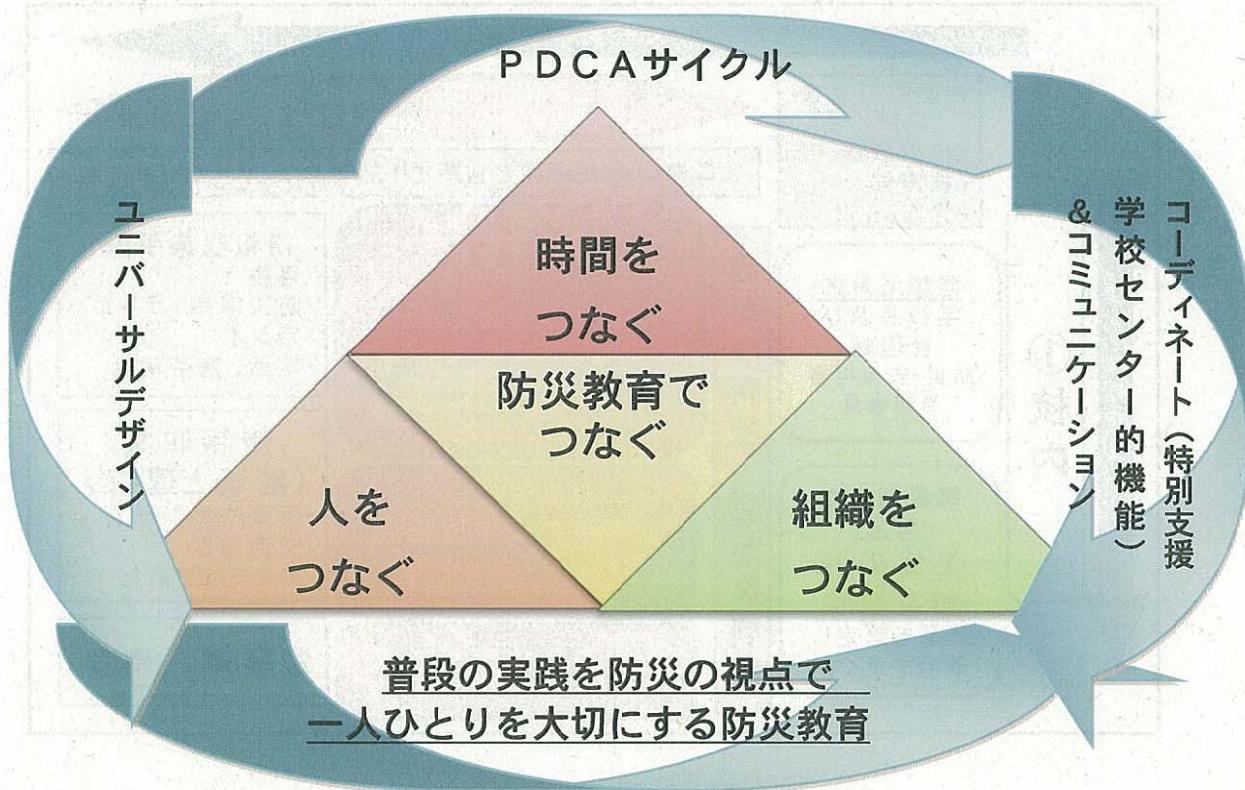
【通学・校外】スクールバス 自主通学 校外学習計画案に災害対応も

【通信・連絡手段・マニュアル】見直しの時期と分掌の位置付け

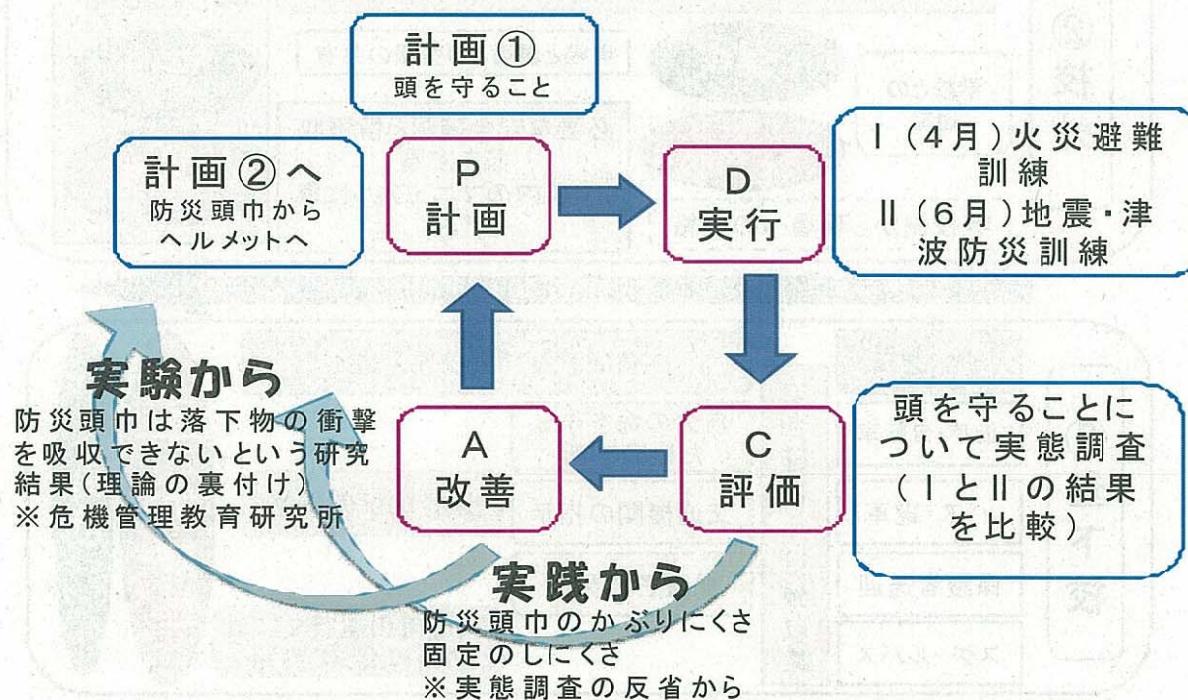
【備蓄】飲料・食料、電源、医療、寒さ  
地域の避難場所（一次避難場所）  
卒業生や災害時要援護者の支援を含めた三次開設避難収容所（福祉避難所）

### 【防災教育を取り組むにあたって】

※授業や行事を防災教育でつなぎ、普段実践していることを防災という視点で見直す。

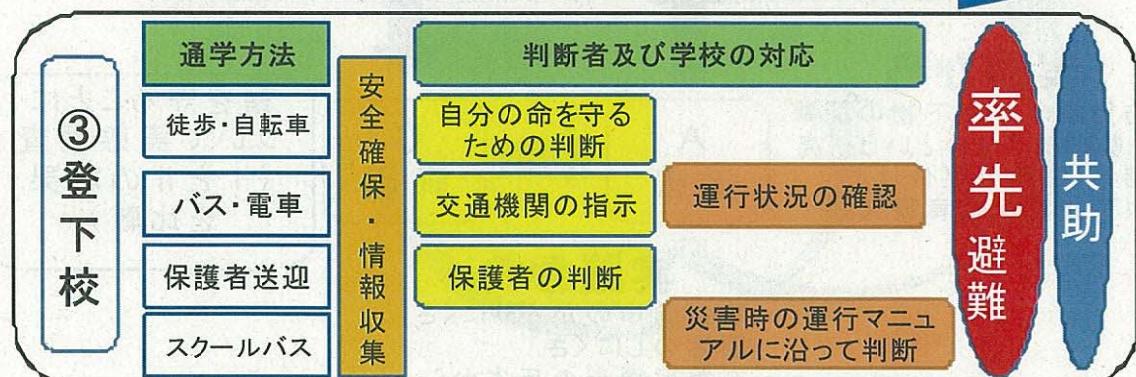
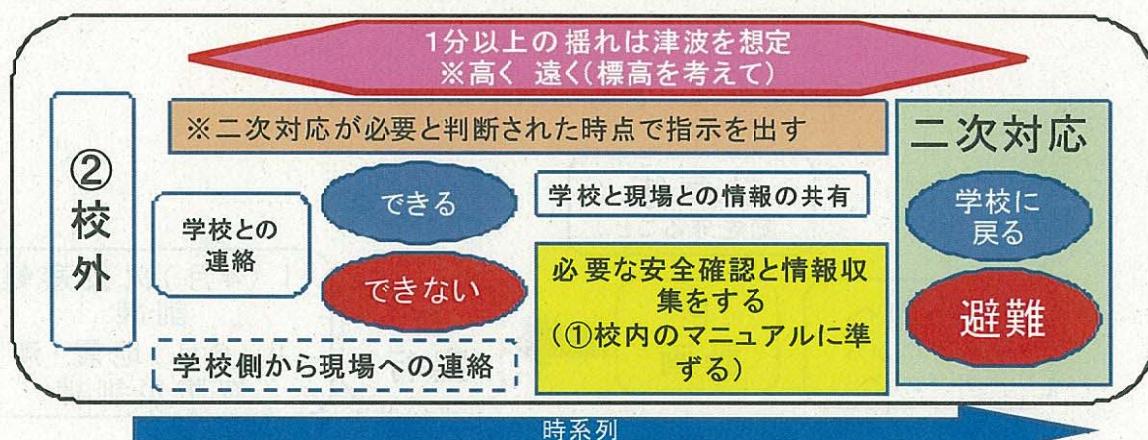
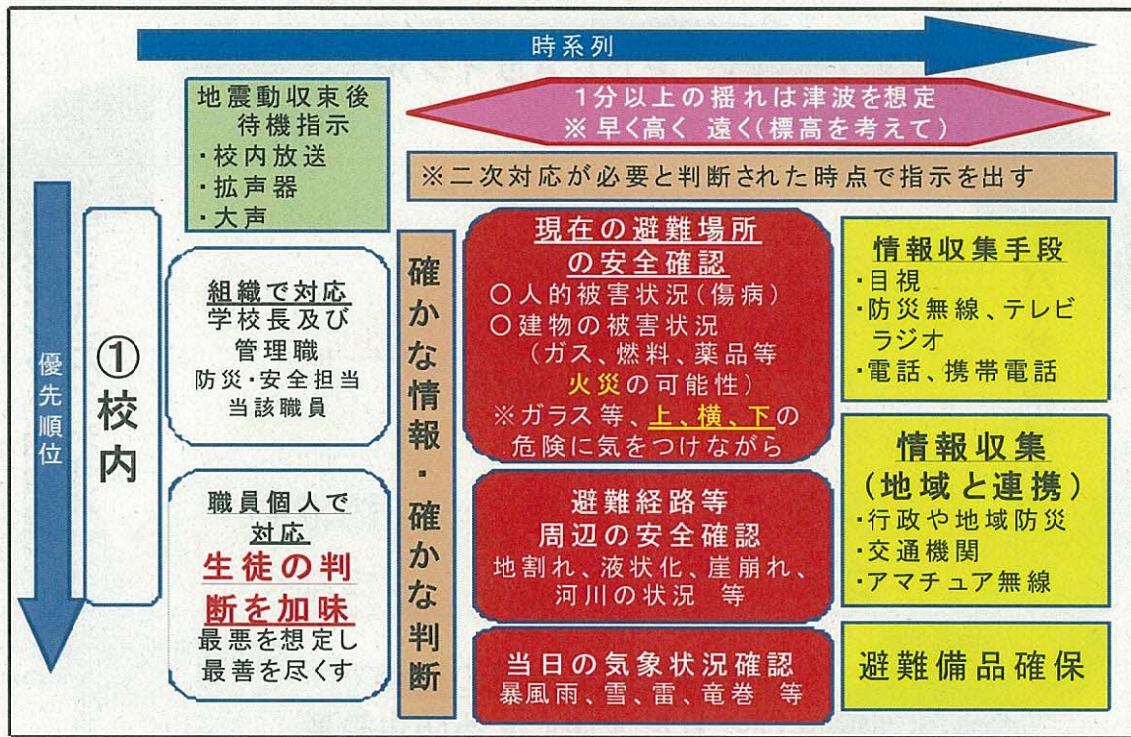


### 【頭を守ること実態調査におけるPDCA】



【初期対応から二次対応判断までの災害対応マニュアル】

※ポイント 時系列と優先順位から作成



## 東金特別支援学校（小学部・中学部・高等部）

### 全校児童生徒集会～防災をテーマとした地域との交流～

#### 1 教科等名 特別活動（交流及び共同学習）

2 ねらい 夏休みに地域のボランティア部会と高等部生徒会で、炊き出しをしてカレーライス作りをした。児童生徒会が主催する全校集会に長寿会とボランティア部会の方々に参加していくことになった。すでに顔見知りになっていたため、快く引き受けただけた。この全校集会は、防災集会と位置付けた。全校集会は、小学部と中学部、中学部と高等部というように姉妹学級を組み、縦割りグループで取り組んできた。地域の方と本校児童生徒との交流を図りながら、防災について考える機会となってほしい。

#### 3 指導計画（2時間 展開例2／2）

- (1) 児童生徒会役員による長寿会への招待状作成等 (2時間)
- (2) 全校児童生徒集会（防災集会） (1時間)

#### 4 展 開

学習内容・活動 ◇主な発問等	教師の支援 ※評価	資料・材料
1 校内放送で集会の始まりのアナウンスをする。（児童生徒会役員）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童・生徒会役員は早めに体育館に集合し、準備を行う。</li> <li>○名札（ガムテープ）を胸に付け、姉妹学級は妹学級を迎えて行き、一緒に体育館に集合する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員の名札</li> <li>・パイプイスとリボン（地域の方）</li> </ul>
2 体育館に姉妹学級で集合する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各姉妹学級をグループ名で呼び、出欠確認をする。</li> <li>・はじめの言葉（児童生徒会役員）</li> <li>・校長先生の話</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○役員が各姉妹学級のプラカードを持って立たせ、それを目印に集合する。</li> <li>○グループ名を呼ぶので、大きな声で返事をさせ、復唱などをして始まりがわかりやすいようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラカード</li> </ul> 
3 長寿会、ボランティア部会の方々を各姉妹学級の代表者が迎えに行く。自己紹介をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各姉妹学級の座る場所に写真カードを置いておき、その写真と同じ色のリボンを付けている方を迎えに行く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指令カード（グッズの場所）</li> <li>・写真カード（避難グッズ）</li> </ul>
4 姉妹学級ゲーム（避難グッズを探せ） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム説明（児童生徒会役員）</li> <li>・姉妹学級に分かれ、グループ毎に指令されている教室へ行く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒会役員も姉妹学級に入る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難グッズ（実物）</li> <li>・緊急地震速報音源（緊急地震速報利用者協議会）</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内放送で緊急放送（地震）が流れた ら、安全な場所に避難する。</li> <li>・避難解除放送が流れたら、教室より、 非常時持ち出しグッズを取って体育館 に戻る。</li> <li>・体育館に戻り、ステージ下の指示され た箇所に持ってきた非常時持ち出しグ ッズを置く。</li> </ul> <p>◇勝敗を競うゲームではなく、交流を図 るためのゲームである。移動の際、ペ アを作ったり、外部の方と話しをした りして親睦を深めるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全な場所で待機する。</li> <li>○指令場所にて避難グッズを取り 次第、体育館に安全に気をつけ戻 てくる。</li> <li>○グループによって体育館に戻つ てくる時間に差が出るが、定位置 にて姉妹学級で待機していく る。</li> </ul> <p>※グループ毎に安全に避難行動を とることができたか。</p>	
<p>5 非常食を食べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食べている間、児童生徒会役員の質問 に答える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アレルギー対応等、個別対応が必 要な生徒は、担任が用意をする。</li> <li>○緊急放送が流れた際、どこにいた のか、どのように避難をしたかな どに答える（全グループから話 しを聞く）</li> <li>○拍手で送る。</li> </ul>	<p>・試食用非常食</p>
<p>6 終わりの会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長寿会、ボランティア部会の方から感 想を聞く。</li> <li>・長寿会、ボランティア部会の退場。</li> <li>・次回予告（児童生徒会役員）</li> <li>・終わりの言葉（児童生徒会役員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○姉学級は妹学級を教室まで送る。</li> </ul>	

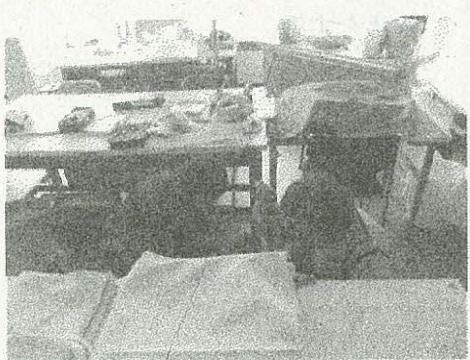
5 評価 (1) お互いの名前を覚え、交流をすることができたか。

(2) 協力して安全に避難することができたか。

(3) 防災や安全について考える機会になったか。

## 6 その他 (実施中に見られた行動や感想)

あるグループは、廊下にいる時に緊急地震速報が流れ、そ  
の場に座り頭を守った。高等部生徒が小学部児童の頭を守り  
ながら自分の頭を守る姿があった。あるグループでは、中学  
部の生徒が、「〇〇さん、ここに隠れて！」と机から椅子を引  
き出して長寿会の方と一緒に机の下に避難する姿が見られた。非常食の試食では、普段、お菓子を  
食べない小学部の児童が、皆が食べるのを見ながら自分の口へ入れた。緊急地震速報を流すことを  
事前に伝えておいたことで、気持ちが落ち着かなくなる児童生徒もなく、「また一緒に活動をした  
い。」という感想が、児童生徒、地域の方々の双方から聞かれた。



## 東金特別支援学校（高等部）

### 災害時の「ほうれんそう」～緊急時のコミュニケーション～

#### 1 教科等名　自立活動（自主通学グループ）

**2 ねらい** 3. 11の東日本大震災の時、自主通学の生徒たちは、部活動中、下校途中、寄宿舎の活動中と様々な状態であった。学校付近にいた生徒たちは一旦体育館に避難したが、大きな余震があり、グランドへ避難した。震えながら涙を流す生徒もいた。数日後、余震の影響で電車が止まり、駅で足止めになった生徒たちを、スクールバスで迎えに行くということもあった。震災時を思い出しながらブレーンストーミングをしたり、具体的な場面設定でロールプレイングをしたりすることで、緊急時に自分で自分の身を守るための方法や、必要となるコミュニケーションについて学んでほしい。

- (1) 自分の身を守るために必要なことを考えることができる。
- (2) 自分の言葉や表現で、意見を発表することができる。
- (3) 他者の気持ちを知ることができる。



#### 3 指導計画（2時間 展開例2／2）

- (1) 釜石東中学校の生徒による  
体験発表のビデオ鑑賞（1時間）
- (2) 災害時の「ほうれんそう」（1時間）

#### 4 展開

学習内容・活動 ◇主な発問等	教師の支援 ※評価	資料・材料
<b>1</b> 緊急地震速報が流れ避難行動をとる。 ◇電灯を避け、その場でかがむ生徒、ドアを開け外へ出ようとする生徒、友だちの手を引き逃げる生徒。どの行動も正解であり、その時の状況により最善が尽くせるように話をする。	○生徒の行動を見守るが、安全に配慮する。 ※体育館の特性や周囲の様子を考えて避難できたか。 ○映像等を用いて分かりやすく伝える。	• 緊急地震速報音源 (緊急地震速報利用者協議会) • プロジェクター • スクリーン • マイク • PC • 記入用紙
<b>2</b> 本時の学習内容について知る。 ◇震災時の振り返り話をする。(余震で電車がストップしてしまった時に、すぐに電話連絡をしてくれた生徒の話)	○話がしやすいように、同じ通学方法（自転車、JR）の生徒で集まるようにする。	• マジック • 役割がわかる名札
<b>3</b> 5名ずつ6グループに分かれる。 ・自由な発言やアイディアを発表する。 ◇設定「朝の通学中」「家で就寝中」「家で	○発表内容を紙に大きく書くようにする。 ○発表係、紙を持つ係を決め	

<p>「入浴中」に地震が起きたら</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>I 自分でどうする？ 次に…</li> <li>II 誰に、どうやって助けを求める？</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代表者が発表する</li> </ul>	<p>るようとする。</p> <p>※発表することができたか。</p> <p>※発表を聞くことができたか。</p>	
<p>4 役割演技をする。</p> <p>◇設定 下校途中に見つけた 「倒れている人」「通りすがりの人」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代表者二名が発表する。</li> <li>・感想を聞く。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○役割の希望を聞く。</li> <li>○役割の名札をつけて行う。</li> <li>○それぞれについて感想を聞く（グループ毎）。</li> <li>○代表者を決めておく。特に意欲的に取り組んだ生徒や、普段発表する機会がない生徒を選ぶ。</li> </ul>	
<p>5 教師のまとめを聞く。</p> <p>◇今まで教わっていないことに遭遇した時や（火山や竜巻、ゲリラ雷雨）、既成概念にとらわれないで行動しなければならない時（横断歩道青なら渡ってOKか）について、事例を交えて話をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○補足が必要な生徒には、個別に対応をする。</li> </ul>	

## 5 評価 (1) 災害時に自分の身を守るために必要なことを考えることができたか。

(2) 自分の言葉や表現で、意見を発表することができたか。

(3) 他者の気持ちを知ることができたか。

## 6 その他

参考資料 釜石市教育委員会・釜石市市民部防災課・群馬大学災害社会工学研究室（2010）釜石市津波防災教育のための手引き  
国崎信江（著）（2006）こども地震サバイバルマニュアル 株式会社ポプラ社

『学期に1回授業を実施している。次の学期の授業では大津波警報発令の設定で話し合いながら避難した。』  
「他のグループは3階に避難したけど、僕たちのグループは遠くに見える陸橋の上に逃げようと考えた。」  
『命が助かれば、どちらも正解だよね。』



## 東金特別支援学校（高等部）

### 防災マルチパーティションの作成

1 教科等名 美術（選択教科）

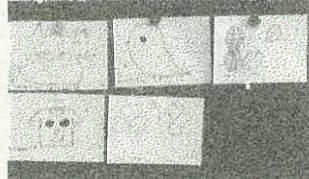
2 ねらい 災害時の避難生活を想像し、災害時に適したデザインを考えさせていく。また、イメージプロフィールから分かった理想のパーティションのデザインや色合いを基に、いくつかのデザインの中から理想に近いデザインを選ばせて着探していく。パーティションの作成を通して、地震の体験や震災後のニュースなどを思い出し、いつ自分たちの身近におこるか分からない災害に備えたり、防災の意識を高めたりするきっかけにさせたい。また、色や形が人に与えるイメージがあり、それを基にデザインを考えることで人の心に変化を与えることができることを知ってほしい。そして、作成したパーティションが誰かのために役立という社会的役割を感じてほしい。

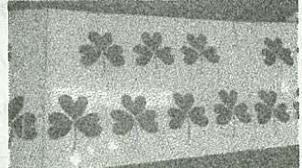
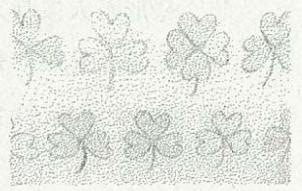
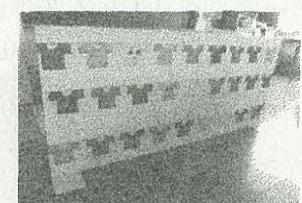
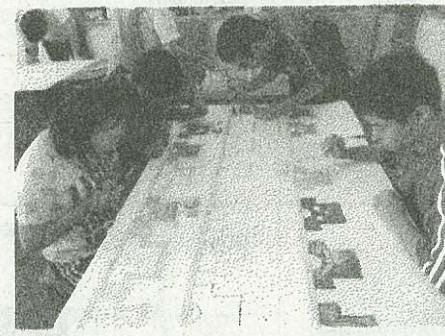
3 指導計画（11時間 展開例7～10／11）

- (1) デザイン作成と決定 (3時間)
- (2) 色合いの作成と決定 (3時間)
- (3) 着色 (5時間)



#### 4 展開

学習内容・活動 ◇主な発問等	教師の支援 ※評価	資料・材料
<p>1 本時の学習内容を確認する。</p> <p>◇災害時の避難所をイメージ（明るい、落ちつく、安心、暖かい、好き）して作成してきたことを振り返りながら確認する。</p>	<p>○下絵の実物を見ながら説明する。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下絵の実物見本</li> <li>・避難所の写真</li>  </ul>
<p>2 三つのグループに分かれて、制作する。</p> <p>◇グループは、「アイディアを出して、絵や言葉で表現できる生徒」「教師の支援を受けアイディアを出し、色を塗ることができる生徒」「教師と一緒に好きなデザインを選んで、色を塗ることができる生徒」に分ける。</p> <p>【下地塗りグループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・板の全面に色を塗る。</li> </ul>	<p>○塗りやすいように、生徒一人一人に合った道具を用意する。また、塗り残しがないように、重ねて塗るよう言葉</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パーティション（木材・プラダン）</li> <li>・ローラー</li> <li>・エッジャー</li> <li>・シート</li> <li>・マジック</li> <li>・下書きシート</li> <li>・アクリル絵の具</li> <li>・筆</li> <li>・刷毛</li> </ul>

		をかける。 ※道具を使って色を塗ることができたか。	・マスキングテープ
【下書き、色塗りグループ】	・パーティションに、デザイン画を基に色を塗る。	○色を間違えないように、デザイン画とパーティションに番号を振っておき、塗る色を分担するように言葉をかける。 ○はみ出さないようにていねいに塗るように言葉をかける。	
		※デザイン画を見て正しい色を塗ることができたか。はみ出さないように塗ることができたか。	
【なぞり、色塗りグループ】	・パーティションに、指定された色を塗る。	○色の名前と番号を振っておき、自分で塗る色を確認できるようにする。 ○はみ出してもいいようにマスキングをしておく。	
		※塗り残しなく、仕上がりがきれいになるように塗ることができたか。正しい色を選ぶことができたか。	
3 片付けをする。		○分担して片付けをするよう言葉をかける。	
4 本時の成果をグループごとに発表する。		○発表する生徒を決めておくよう言葉をかける。	

## 5 評価 (1) 自信をもって、色を塗ることができたか。

(2) 明るい、安心などをイメージしながら色を塗ることができたか。

(3) 災害時に役に立つ意識をイメージすることができたか。

## 6 その他

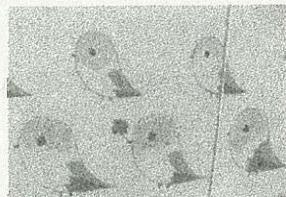
参考資料 ◎平常時には教室や体育の授業で使用し、災害時には避難所の仕切りとして使用する。

○教室で使用するサイズ（高さ 115 cm 横幅 90 cm）

・机で学習している児童生徒を上から見て様子が分かる高さ

○体育や行事で使用するサイズ(高さ 78 cm 横幅 180 cm)

・三輪車等の乗り物に乗った児童の頭が見える高さ



# 「あたりまえ体操／COWCOW」ぼうさい編♪

あたりまえー あたりまえー あたりまえぼうさい♪♪

じーしーんのー とーきはー 「だんごむし！」 あたりまえぼうさい

わーすれちゃー いーけなーいー 「あたまをまもる！」 あたりまえぼうさい

にげるーときにー たいせつなのはー 「くつ！」 あたりまえぼうさい

うみの一ちかくで じしんがきたら 「とにかくにげっぺ！」 あたりまえぼうさい

どーコーに にげーっぺー 「はやく！たかく！」 あたりまえぼうさい

「おーちてこない」「たおれてこない」「いどうしてこない」「いのちをまもるー」

あたりまえ あたりまえ あたりまえぼうさい♪♪ 「がんばっぺーす！！」

(石巻のことば「とにかくにげっぺ！」 宮古のことば「がんばっぺす！」)

## 【解説】

震源が近い首都直下型の地震では、緊急地震速報が間に合わない可能性もあります。いつ、どこで起こるか分からぬ地震に備え、揺れ=避難行動を取るために、だんご虫のポーズを覚え、あわせて頭を守る意識をもつことが大切です。次に二次避難に際しては、ガラスの散乱等が考えられ、靴を履くことが大切です。

沿岸部では、小さな揺れであっても1分以上の長い地震は大きな津波が来る可能性があります。電気が不通になったり電波が混乱したりして情報が入らないこともあります。自分自身で、とにかく逃げるという判断をすることが大切です。遠くへ逃げることが難しい場合もありますので、早く高くという意識が大切です。どこに逃げて、どこに集まるのか、家族の話し合いをしておくことで、家族を信じて逃げることができます。

大きな揺れに備えて家具の固定も忘れないようにしましょう。自分の体重の4倍の重さがあるものは危険です。重くて倒れるものが多く、割れる食器もある場所。一番危険な場所は、台所です。自動的に消火する器具も増えていますので、確認してみてはいかがでしょうか？揺れを感じたら台所から素早く離れられるように備えておきましょう。

落ちてこない・倒れてこない・移動してこない（※注）場所で、まずは自分の身を守り、それから二次被害の火事を防ぐための消火などをしましょう。お母さんたちが怪我をしてしまっては、子どもの命を守れません。自分の命を守り、そして大切な子どもの命を守ってください。

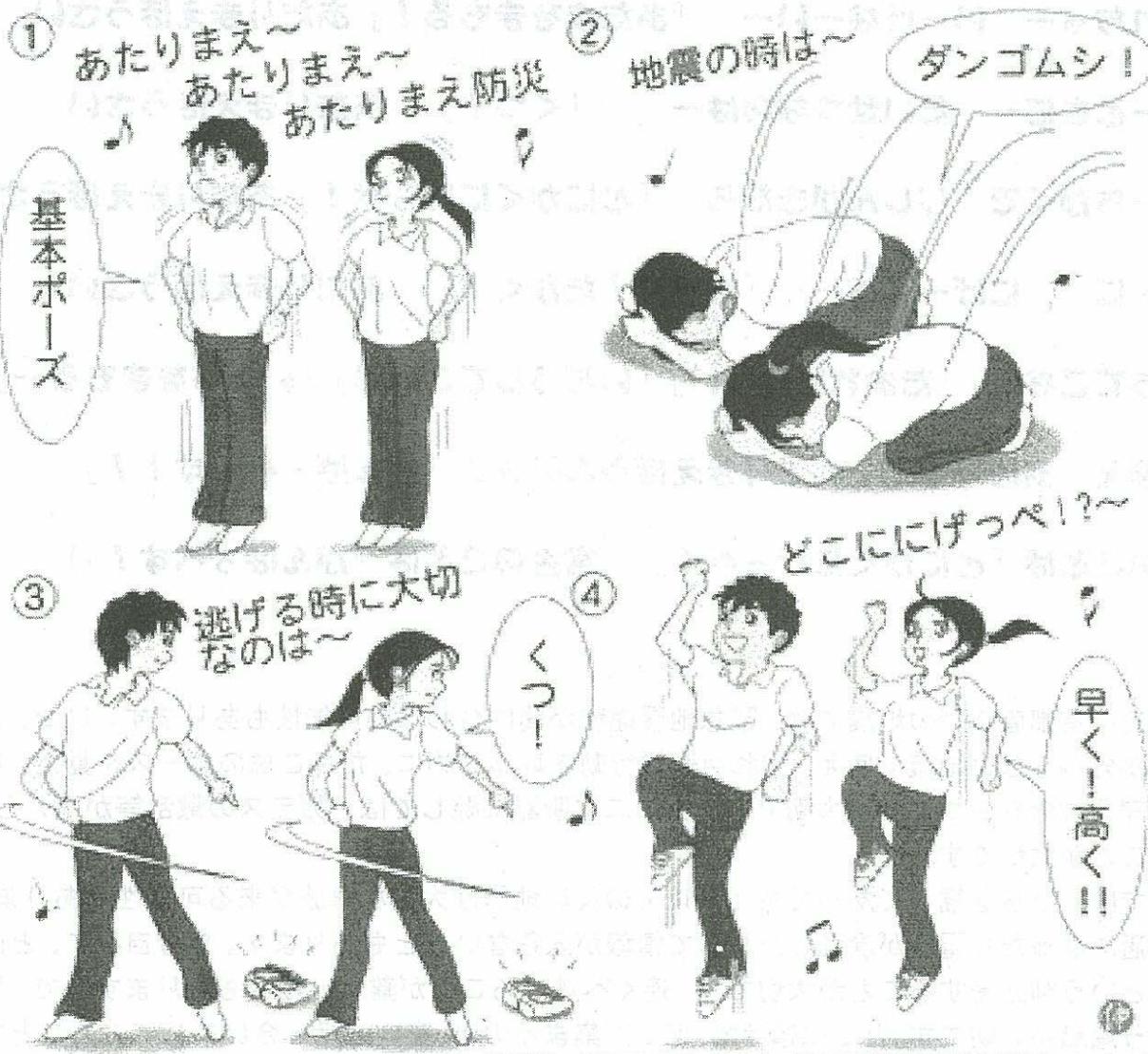
お子さんが一人で留守番をするときもあると思います。ご近所付き合いも大切な防災ですね。

※「移動してこない」とは、コピー機やキャスター付きの大型テレビなどのことです。高い建物では、揺れ幅が大きくなることがあります。注意が必要です。

河北新報社がイラストを作成しネットで紹介！！

「2013.1.11 河北新報 防災・減災のページ」

## あたりまえ体操防災バージョン



Facebook でたくさんの「シェア！」「いいね！！」

Twitter での評判もよく、さっそくわが子にという「つぶやき」も♪

一人ひとりの大切な命を守るために、本校は、地域連携と授業での防災教育に取り組んでいます。夏には生徒会の代表が、石巻、宮古、釜石、花巻の学校や千葉県の被災地である旭市飯岡を訪問し、つながりを大切にしながら学習を進めてきました。その一つの取り組みとして、正しい知識を楽しく覚え、長きに渡って記憶に残ることを願い「あたりまえ防災プロジェクト」を立ち上げました。阪神淡路大震災から言われている、家具の固定などの『あたりまえ』の防災意識を高め、親しみやすく誰でも覚えられるように、そして「忘れてはいけない」東北をつなぐために、東北の言葉を交えて歌詞を作りました。この度、吉本興業さんCOWCOWさんから替え歌を作り、広めてよいことの許諾を得ることができました。この機会に、ぜひ、防災について家庭で話題にしていただき、一人ひとりの大切な命を守る一助になれば幸いです。